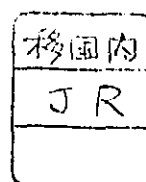


現地日本語教師の本邦研修記録

第 3 回

1 9 8 2 年 3 月

国際協力事業団



JICA LIBRARY



1019651[7]

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 3. 12	600
登録No. 00131	24
	ESD

目 次

まえがき

研修総括報告書	1
ブラジル国 ロンドリーナ 酒井政広	3
イビウーナ 木内務	5
イガラッペアス 佐々木邦子	7
トメアス 大西保子	10
クビチェック 西山喜多雄	12
ボリビア国 サンファン 笹木久美子	14
パラグアイ国 アマンバイ 榎木寿	16
アルゼンチン国 ブエノスアイレス 塚田 獅	19
ドミニカ国 ハラバコア 矢内愛子	23
ペルー国 リマ 森川早苗	25
研修日誌	31
第8回現地日本語教師研修日程表	33
本邦研修生一覧	98

ま え が き

国際協力事業団では、既移住者に対する教育対策の一環として主として戦後移住者及びその子弟を中心に日本語教育に対する援助（教師謝金の補助、教具教材等の整備、日本からの指導教師の派遣等）を行ってきていますが、昭和54年度から新たに現地日本語教師の本邦研修を開始しました。

移住者子弟に対する日本語教育のあり方、あるいは施策上の問題点は今後共十分論議を尽す必要がありますが、優れた教師の存在が日本語教育の推進上必要欠くべからざることは論をまちません。しかし、日本語学校の教師の置かれた環境は必ずしも恵まれたものではないのが現状であります。そこでこれら教師を3カ月間本邦に招き、日本語教授法その他の知識を修得せしめ、また、国内研修旅行等を通じ、日本の歴史、社会、現情等についての認識を深めさせることにより、教師としての資質の向上の一助にしたいというのが、この事業の趣旨であります。

本誌は第3回本邦研修者10名の総括報告書と、研修日誌が集録されております。

最後に本事業の趣旨を深くご理解下さり、研修者を温かくご指導下さった玉川大学の諸先生方をはじめ、関係者の皆様方に感謝の意を表するものであります。

1982年 3月

国際協力事業団
移住事業部長



通大まつり前夜祭でお国自慢の
民族舞踊衣裳でせいそろいの研
修教師



海外子女教育センター見学



五川大学正善先生の現地事情研究



東京見物、はとバスの前で



玉川学園内で本邦研修の記念植樹

研 修 総 括 報 告 書

1. 研修機関

玉川学園大学国際部を主とし、夏期劇大学、国際学友会、東京学芸大学海外子女教育センター
及附属大泉小学校

2. 研修期間

昭和56年6月19日～昭和56年9月18日

3. 当初、研修に期待したこと

- (1) ブラジルに於ける日本語教育の技術的研究
- (2) 自分の今まで行ってきた教授法の反省
- (3) 教材、教具の購入
- (4) LLの教授法
- (5) その他

4. 研修概要

○ 第一期

児童心理学 — 日名子先生

全人教育 — 岡田先生

現地授業研究 — 正善先生

美術教育 — 佐藤先生

日本語を考える — 片山先生

体育レクリエーション指導 — 石井先生

東京都内見学 — 正善、昌谷先生

海外日本語教育 — 上原先生

基本体操 — 中山先生

幼稚部参観

小学校の舞踊 — 玉川先生

児童音楽 — 朝日先生

小学部参観

中学部参観

鎌倉方面見学 — 昌谷先生、正善夫人

大きな遊具の運動あそび — 古谷先生

小さな遊具の運動あそび — 永井先生

○ 第二期(スクーリング)

教育学演習 — 岡田先生

現地授業研究 — 正善先生

音楽教材 — 朝日先生

学校劇特別研修

学校劇夏期大学

国籍教材 — 上原先生

児童心理学 — 水口先生

○ 第三期

関西方面見学

出身地研修

国際学友会日本語学校見学

東京学芸大付属海外子女教育センター、付属大泉小学校見学

補修授業、朝日、片山、正善、岡田の諸先生

5. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- (1) 玉川大学の教育理念をとり入れる。
- (2) 玉川大学の明るい授業の方法を生かして行く、単に日本語のみでなく、音楽、美術、体育、その他のユニークな発想、方法を以て興味を持たせて行く。
- (3) 国際学友会での教育の技術的面を、現地に適応すべく研究し、実行する。
- (4) 東京学芸大付属大泉小・中学校の海外から帰国した子女を早期に普通校に入れるための超復式授業を、私の行ってきた方法にとり入れ改善していく。
- (5) 以上の各校、各教師とのきずなを、今後共保ら常に前進して行きたい。
- (6) 見聞し、体験した日本を生徒に父兄に伝える。

6. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) もっと自由な日が与えられ、各研修生が個別に東京や横浜を歩ける時間がはしかった。
- (2) 現地に帰って伝えるべく、大企業等の見学。
- (3) 第二期のスクーリングは、我々にとってはかけはなれた目的の授業が多い故、時間をもって有効に使える様に出来たらと思う。
- (4) 出身地研修は、親類、知人、友人がどうしても、次々に会いに来て学校での研修が妨げられ易い。できたらもっと日時があったらと思う。

7. 所 感

23年ぶりに帰国した者として、常に新しい発見をし、珍しいものにぶつかったりする度に、電車の中でも、大学でも、周囲に居る誰にでも質問し、且つ話題を発展させて種々の事柄に就いて話し合った。唯一人の例外を除いては、皆親切に教えてくれ、且つ話し合ってくれた。“人間砂漠”とか“コンクリート、ジャングル”とか新聞、雑誌によって得ていた、日本に抱いていたイメージは誤りであった事実を知り、大きな喜びであった。“都会の孤独”等という言葉が以前からあったが、それも実は、己の他に対する態度からであり、大多数の人は、他との交流を内に欲しているのではなからうか。街は変わり、物質も驚く程潤沢に生まわってはいるが、人の心は変化せず、暖いものであることが、最も私にとってうれしいことであった。唯、それを家庭に、学校に、職場に、いつも他と関係を持つ様、心がけたらもっと生活が楽しくなるのではないだろう

か。

この事は、直接的に、“知っている者”として対した国際事業団の方々、玉川大学の諸先生、事務関係の人々、学生、生徒、園児の全ては、こちらが恐縮する程の好意を示してくれた。犠牲的とも云える程、私達の為に尽してくれた。感謝にたえない。

私は、この“人間関係”がその“暖かさ”が印象として最も強く心に残った。これが私の母国であり、それをバックとして私は南米に在り、二世、三世、四世にも、父母、祖父母の祖國について自信を以て語り、伝えて行けると思った。

多くの問題が着日以来、次々起り忙しいスケジュールで未だ得たものを頭で整理できない状態であるが、この機会を与えられたことを心から感謝して“所感”としたい。

ブラジル国サンパウロ州イビウーナ日本語学校

木 内 務

1. 研修機関

玉川学園国際教育室の企画

2. 研修期間

昭和56年6月20日～昭和56年9月17日

3. 当初、研修に期待したこと

- (1) 日本語を外国語として教えるべきか、母国語として教えるべきか(日系二、三世に)、その効果的教育法
- (2) 全寮生の効果
- (3) 教師としての視野を広める事
- (4) いかに生徒が楽しく学習出来るか、その方法

4. 研修概要

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ○ 第一期(特別講義) | 6月20日・オリエンテーション |
| (6月24日～7月16日) | 6月22日 事業団、外務省表敬訪問 |
| (1) 児童心理学(日名子先生) | 6月23日 玉川学園長表敬訪問 |
| (2) 全人教育(岡田先生) | 6月27日 東京都内見学(正善、昌谷先生引 |
| (3) 美術教育(佐藤先生) | 卒) |
| (4) 現地授業研究(正善先生) | 7月 2日 玉川学園幼稚園部参観 |

- (5) 日本語を考える(片山先生) 7月 7日 玉川学園小学部参観、懇談
- (6) 体育レクリエーション指導(石井先生) 7月11日 鎌倉方面旅行(引率、目谷先生)
- (7) 海外日本語教育(上原先生) 7月 9日 玉川学園中学部参観、懇談
- (8) 基本体操(中山先生)
- (9) 小学校の舞踊(玉川先生)
- (10) 児童音楽(朝日先生)
- (11) 大きな器具を使った体操(古谷先生)
- (12) 小さな器具を使った体操(永井先生)
- (13) H・R(正善先生)

○ 第二期(夏期通大スクーリング参加)

- | | | | |
|---------------|-------------------------|--------|-------------------------|
| (7月20日~8月24日) | | 7月20日 | オリエンテーション |
| 前
期 | (1) 教育学演習(岡田先生) | 7月22日 | 閉講式 |
| | (2) 現地授業研究(正善先生) | 8月6~8日 | 学校劇夏期大学参加(伊豆長岡) |
| | (3) 音楽教材(朝日先生) | | |
| 後
期 | (4) 国語教材(上原先生) | 8月10日 | 中間報告会 |
| | (5) 現地授業研究(正善先生) | 8月14日 | 通大祭・前夜祭に参加 |
| | (6) 選択科目
児童心理学(水口先生) | 8月25日 | 閉講式 |
| | | 8月 1日 | 赤坂にて観劇、玉川学園演劇部の「ベッカニコ鬼」 |

○ 第三期(8月26日~9月17日)

- | | | | |
|------------|--------------------------------|----------|----------|
| 8月26~29日 | 京都・奈良旅行 | 9月12・13日 | 伊豆・箱根小旅行 |
| 8月31日~9月5日 | 出身地研修
(静岡県由比町) | 9月16日 | 玉川大学閉講式 |
| | | 9月17日 | 事業団閉講式 |
| 9月 8日 | 国際学友会日本語学校参観 | | |
| 9月 9日 | 総括 | | |
| 9月10日 | 東京芸大付属海外子女センター、
付属大泉小・中学校参観 | | |
| 9月11日 | 補習授業(朝日・岡田・片山先生) | | |

5. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

- (1) 子供(生徒)を中心とした教育を行いたい。
- (2) 遊びの中より教育をする方針

- (3) 情操教育をふやす。
 - (4) 読み書きも必要であるが、日系二・三世の子供に日本人的な人間に育てる事を主体に教育する。
 - (5) 生徒各自の個性を伸ばしてやる教育をする。
6. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項
- (1) スクーリングに於て、実際私達が中南米に於て直接活用するのに、いかにしたらよいか判断に苦しむ様な授業もあったが、もう少し検討していただき直接活用出来る授業を増やしてほしい。
 - (2) 学校参観をもっと増やしてほしい。東京の学校だけでなく関西旅行等を利用して他の都市、僻地教育等の参観も考慮してほしい。

7. 所 感

この度は、事業団及び玉川学園の先生方には、私達中南米研修生に対して特別の御配慮を頂き誠に感謝致しております。又私達の宿舎に当てられたセンターの人達の心暖るお世話に私達一同非常な喜びに絶えません。私達も希望者多数の中より選ばれた研修生として一同自分達ながら一生懸命にがんばったつもりです。

毎日教壇に立って子供達に教育している私達がこの8ヶ月、生徒となり貴重なる体験を積んだ事は、今後ブラジルへ帰ってから子供達に接する時、今までと違った新しい豊富な経験を基に楽しく自信に満ちた教育が出来る事と思います。

時間の許すかぎり、この貴重なる体験は我が校だけにとめず、近隣、広くブラジルの日本語学校の先生方にも分け合って、より良い教育が出来る様努め度いと思っています。

私事で申し訳ありませんが、研修も無事済ませ、いざ閉講式を迎える大切な時に病気になる、10日間も入院生活を送り、その間皆さまに大変な御心配、又お世話をお掛け致してしまい誠に申し訳なく思っています。帰国後、身体には充分注意致し教育の為に一身を捧げる覚悟です。どうもありがとうございました。

ブラジル国パラナ州イガラッペアス日語学校

佐々木 邦 子

1. 研修機関

玉川大学国際学部企画

2. 研修期間

56年6月1日～56年9月18日

3. 当初、研修に期待したこと

研修によって、少しでも日本語への知識を深めたい。特にへき地の学校、複式学級のある学校の授業参観実習をしたい。

「教えること」への自信をつけたい。

4. 研修概要

[第一期]

児童心理学(日名子先生)

事業団、外務省表敬(6月22日)

全人教育(岡田先生)

玉川学園長表敬(6月28日)

日本語を考える(片山先生)

東京都内見学(6月27日)

海外日本語教育(上原先生)

玉川幼稚園見学参観(7月2日)

レクリエーション指導(石井先生)

小学部参観(7月7日)

美術教育(佐藤先生)

スクーリング開講式(7月22日)

基本体操(中山先生)

学校劇特別研修
(8月1日)

小学校の舞踊(玉川先生)

「べかんとおに」

大きな器具を使った体操(古谷先生)

学校劇夏期大学(8月6日)

小さな器具を使った体操(永井先生)

伊豆長岡 (8月7日)

[第二期夏期スクーリング]

〃 (8月8日)

現地授業研究(正善先生)

通大祭に参加(8月15日)

国語教材(上原先生)

関西方面旅行(8月26日～29日)

レクリエーション及び体育(石井先生)

出身地研修(8月30日～9月5日)

教育学演習(岡田先生)

国際学会見学(9月8日)

H・R(正善先生)

東京学芸大付属海外子女教育センター、大泉小
・学校見学(9月10日)

音楽教材(朝日先生)

玉川大学修了式(9月16日)

事業団閉講式(9月17日)

5. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

この度の研修で修得したことを、自分の学校だけでなく他校の教師にも広め、以前よりも教師間の交流を深めていきたい。

「楽しく日本語を学ぶ」ということが私の願いですが、そうする為の知識をこの研修で多く学ぶことが出来ました。それを大いに発揮し、子供たちに「日本語の勉強は楽しい」といわせる授

業をやっていききたいと思います。

言葉、語学への知識だけでなく、玉川学園の先生方の様な「人間を作る」教師になりたいと思います。又、私が訪ねた福井県小浜市の下根来小学校々長の言われた言葉「子供と本気で遊べる教師でなければ子供はついてこない」この言葉をいつも心において、子供達に接していこうと思います。

6. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

幼稚園、小学校の授業参観をもっとふやしていただきたい。

国際学会の授業、海外子女教育センター、付属大泉小・中学校の授業は、私達にとってもっとも身近で、同じ悩み、問題を持つ学校として学ぶところが多く、この二つの授業参観、又は出来ることなら何日間かの実習をしていただけたらと思う。

玉川大学への通学時間をもっと短くする事が出来ればその時間をフルに利用出来たらと思う。

3.5 時間を通学に費すのが惜しかった(しかし、電車の中では、現代の社会を見ることが出来たからムダではありませんでした)。

高年者の先生方には、別の形の研修を考えて上げていただきたいと思う。体力的に、若い人と同じでは大変だと感じました。

7. 所 感

22年ぶりの日本での3ヶ月間、これは筆につくせないものがあります。私の一生にこのような豊富な経験をする事は二度とあるまいと思われれます。この度の研修は、私の貧しい知識をこれまでより豊かにしてくれると共に、子供たちと一緒に日本語を学んでいく事の喜びと、「これを出来る限りやり続けていこう」という気持ちを強くさせてくれました。

こんなに子供達と楽しく勉強する方法があったのか、こういう指導法があったのか、と数々の新しい発見に胸おどる思いをいたしました。そして、多くの人々との出会い、特に玉川大学の先生方との出会いは、その方々から得た知識もさることながら、先生方の人間味あふれるお人柄、人生感から「人間としてどう生きるか」という一番大切なことを学ぶことが出来た。これこそ何よりの収穫であったと私には思えます。

教授と生徒としてでなく、一対一の人間として私達に接して下さった先生方。人との出会いの大切さを教えて下さった先生方に、そして、こうした方々と出会う機会を与えて下さった方々に感謝せずにはおられません。

この3ヶ月を通して、日本を考える時、やはり日本は素晴らしい国だと感じました。色々な矛盾や、理解出来ない面、反発を覚えた事もあったけれども、私の意識の中にいつもあった日本の良さ、底に流れている日本人の心というものは、今も変わらず生きている。私はそうしたものを、通学の電車の中で、大学生活の中で、又お世話になった方々の中に見ることが出来ました。甘い見方と言われようと、私は日本の良い面を見つめ、表面的に大きく変わっても、その心は変わらず伝

えられると信じた。

又、8ヶ月という長い団体生活は、私に自分の弱さ、未熟を認めさせ、それゆえに忍耐することも教えてくれました。これは私にとって大きな試練でもありました。人を傷つけずに自分を主張する事のむずかしさ、他人の気持を思いやる事の大切さをこの団体生活の中で痛感いたしました。この試練を経て、少し成長出来たと思っています。これらの経験、試練を与えられた事を、心から感謝いたします。

ブラジル国パラ州トメラス文化協会日語学校

大西保子

1. 研修機関

玉川大学国際部企画

2. 研修期間

56年6月19日～56年9月17日

3. 当初、研修に期待したこと

- (1) 教材、教具の作り方
- (2) 学校劇の指導法
- (3) 野外活動とその指導法
- (4) 体育や音楽の指導法
- (5) 作文の指導法

4. 研修概要

第一期（6月19日～7月19日）

児童心理学（日名子教授）	6月27日	東京都内見学
全人教育（岡田教授）	7月2日	玉川学園幼稚園参観
美術教育（佐藤教授）	7月9日	玉川学園小学部参観
現地授業研究（正善教授）	7月11日	小旅行（鎌倉方面）
日本語を考える（片山教授）		
体育レクリエーション（石井教授）		
基本体操（中山教授）		
児童音楽（朝日教授）		
小学校の舞踊（玉川教授）		

海外日本語教育（上原教授）

大きな器具を使った体操（古谷教授）

小さな器具を使った体操（永井教授）

日・R（正善教授）

第二期（7月20日～8月25日）

8月1日 学校劇特別研修

通大スクーリング受講（前期）

8月6・7日 学校劇夏期大学参加

教育学演習（岡田教授）

8月10日 国際協力事業団本部中間報告会

音楽教材研究（朝日教授）

現地授業研究（正善教授）

スクーリング（後期）

国語教材研究（上原教授）

8月26・27・28日

現地授業研究（正善教授）

研修旅行、京都・奈良

音楽一般（迫教授）

8月29日～9月7日 出身地研修

児童心理学（水野教授）

9月8日 国際学友会見学

体育レクリエーション（石井教授）

9月9日 事業団報告会

第三期（8月26日～9月17日）

9月10日 東京学芸大付属大泉小学校見学

音楽教材補講（朝日教授）

9月12・13日 箱根旅行

全人教育（岡田教授）

9月16日 玉川大学修了式

日本語を考える（片山教授）

9月17日 事業団閉講式

現地授業研究（正善教授）

5. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

何の予備知識もなく、突然ある教師の欠員の為、始めた日本語指導であるので、現代の指導法も全くわからず自分が昔学んだ先生を思い出しながらやっている間に、一つのパターンが定まってしまう指導法について行きづまりを感じていた矢先の研修であった。今回の研修で玉川大学の人間性豊かな暖かい先生方に触れる事が出来ただけでも、私にとっては大きな収穫であった。受講した科目も殆んど現地ですぐ活用できるものであった事は嬉しい限りである。私なりに最大限に吸収したものを持ち帰り、参加されなかった先生や子供達に広く伝授していきたい。今、コロナの一番必要とされている人達、将来のリーダーを育てていくために、日本語を通して研修したことを活用し伝えていきたい。

6. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

ブラジル政府が日語派遣教師の長期逗留を認めない為に、我々地域にはこの制度がない。そのために、日語教師研究会では地域の教師が集まり、膝をつき合わせて、それぞれの悩みを話し合

ったり、日語教育の研究に努めているが、今なお問題多く、暗中摸索の状態である。この問題解決のためにも、日語教師後続者育成のためにも今後この研究制度を継続し、参加人数も増やして欲しい。

7. 所 感

3ヶ月、長いようで短かった研修期間、貴重な体験をさせて頂き有難うございました。

玉川大学で特別研修生として勉強し、玉川でなければ学べなかった全人教育を学び、人間味あふれる先生方に触れ、そして道徳心豊かな学生達に接し、深い感銘を受けました。又、各方面の学校での授業参観では、視聴覚教育の発達に驚き、研修旅行では久々に修学旅行を思い出すと共に日本の伝統的雰囲気を感じ、そして郷里訪問では懐かしい親、兄弟、旧友との対面と、大変ハードではあったが広範囲に見聞を広める事が出来、井の中の蛙……から脱出した新鮮な気分が帰国する事が出来ます。帰国後、研修の成果を自分なりに大いに生かし、学校のため、又村の発展に役立てたいと思います。

最後に、国際協力事業団、各関係機関の方々に深く感謝致します。

ブラジル国バイヤ州クビチェック日本語学校

西 山 喜多雄

1. 研修機関

玉川学園国際部企画に依る玉川大学聴講生同夏期通大スクーリング参加する。学校劇研修、学校劇夏期大学伊豆長岡、国際学友会日本語学校見学、東京学芸大学付属校見学。

2. 研修期間

昭和56年6月19日～9月18日

3. 当初、研修に期待したこと

- (1) 複式教育の指導法について
- (2) 現地における日本語指導法
- (3) 教材及教具等の研究

既に本研修を受ける玉川大学よりは正善先生、片山先生、上原先生、数多くの先生方が現地をよく調査し指導して廻っておられる先生方の膝下で研修のできることに大きく期待をした。

4. 研修概要

第一期

児童心理学（日名子先生）

全人教育（岡田先生）

現地授業研修（正善先生）	幼稚園参観
美術教育（佐藤先生）	小学校舞踊（玉川先生）
日本語を考える（片山先生）	児童音楽（朝日先生）
体育レクリエーション指導（石井先生）	小学部参観
東京都内見学（正善、昌谷先生）	鎌倉方面見学（昌谷、正善先生）
海外日本語教育（上原先生）	大きな器具の運動あそび（古谷先生）
基本体操（中山先生）	小さな器具の運動あそび（永井先生）
第二期（スクーリング）	
教育学演習（岡田先生）	学校劇夏期大学
現地授業研修（正善先生）	国語教材（上原先生）
音楽教材（朝日先生）	児童心理学（水口先生）
学校劇特別研修	
第三期	
関西方面見学旅行	東京学芸大付属学校見学
出身地研修	補修授業（朝日、片山、正善、岡田先生）
国際学友会日本語見学	

5. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

今回の研修は私にとっては高度であり理解に苦しむ点が多かったと思います。自分の浅学無学を恥らうものですが、過去十数年間子供に無資格者が日本語を指導して今日にいたったことは責任を痛感します。本研修諸先生方の講義・実習を熱心に指導されたことをでき得る限り取得するべき努力し重要な点はメモしました。今後は旧体の姿より脱皮した子供達の個性に合った生き生きとした玉川大学を基礎とした教育、子供達より喜び勇んで進むような指導に進みたいと思う。

6. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) 本研修は今後も是非継続して頂きたい。次代をにやう子供の教育にあたる教師の研修であり、又、玉川学園は教師養成の最高の場所と思います。
- (2) 現地に派遣されておる教師を以って、せめて一年間に二回なりとブラジルバイヤ州にも巡廻指導をお願いします。
- (3) 国際学友会日本語見学は最も大切な研修と思います。
- (4) 東京学芸大付属海外子女教育センターの指導方法が我々現地における日本語指導と全く同一の面があり、現地教育に最も効果があると思います。継続して下さい。

7. 所 感

今回事業団の尊き御配慮により、私日本語教師研修を玉川大学にて3ヶ月の研修を無事修了することができましたことを玉川大学及び国際協力事業団に対し感謝申し上げます。更に移住センター所長をはじめ職員の方には格別なる御愛情を賜り、心より感謝をいたしております。

私、長い間日本語教師として其の職についておりましても、とかく悲感的になり自信を失うような時が度々ありましたが、今回の研修により現地における日語教育になんとか自信がもてるように勇気づいてまいりました。玉川学園における全人教育は、人間養成の上に最も重要な教育の考えかたということ強く痛感いたしました。諸先生方よりおそわり重要と思われる部分は書き落しのないようにメモしております。現地に帰りましたら板面を整理し、又テープにも入れております。更に貴重な教材、書籍など玉川大学の御配慮にて頂きました。あらゆる面を生かし、今後の現地日本語教育の面に最高度に活用し尊き研修の成果をあげるよう努力いたします。今後も、本研修を継続されんことをお願い申し上げます。

ボリビア国サンタクルス州サンファン日語学校

笹 本 久美子

1. 研修機関

玉川大学国際学部企画

2. 研修期間

56年6月19日～56年9月17日

3. 当初、研修に期待したこと

- (1) 現地に於ける日本語教育の在り方と指導
- (2) 小学部の授業法を一から学びたいと思った
- (3) 体育や音楽の指導法
- (4) 学校劇の指導

4. 研修概要

第一期(6月19日～7月19日)

(中南米日語教師のために特別講義期間)

児童心理学(日名子先生)

6/22 国際協力事業団本部、外務省表敬

全人教育(岡田先生)

6/23 玉川学園学長表敬

海外日本語教育(上原先生)

6/27 東京都内見学

日本語を考える(片山先生)	7 / 2	玉川学園幼稚園部参観
美術教育(佐藤先生)	7 / 7	玉川学園小学部参観
児童音楽(朝日先生)	7 / 9	玉川学園中学部参観
基本体操(中山先生)	7 / 11	鎌倉見学旅行
大きな器具の運動あそび(古谷先生)		
小さな器具の運動あそび(永井先生)		
小学校の舞踊(玉川先生)		
体育及びレクリエーション(石井先生)		
H・R(正善先生)		

第二期(7月20～8月25日)

通大スクーリング閉講

教育学演習(岡田先生)	8 / 1	学校劇特別研修(都市センターホール)
音楽教材(朝日先生)	8 / 6～8 / 8	学校劇夏期大学(伊豆長岡)
国語教材(上原先生)	8 / 10	中間報告会(事業団本部にて)
体育及びレクリエーション(選択)	8 / 14	通大前夜祭に参加(南米の踊り)
(石井先生)	8 / 25	通大スクーリング閉講式

現地授業研究(正善先生)

第三期

京都一奈良方面研修旅行(8月26日～8月29日迄)

出身地研修(8月30日～9月7日迄)

インターナショナルスクール国際学友会日本語学校見学、参観(9月8日)

最後の報告会(移住センターにて、本部センターの方と)(9月9日)

東京学芸大学附属大泉小学校見学、参観(9月10日)

玉川大学にて特別補習授業

音楽(朝日先生)、日本語を考える(片山先生)、全人教育(岡田先生)、現地授業研究(正善先生)(9月11日)

伊豆箱根旅行(9月12日～13日)

玉川大学修了式(9月16日)

事業団閉講式(9月17日)

5. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

- (1) 私にとって玉川大学で学んだ事がどこまで応用出来るか、実際に帰って教室にはいってみたいとわかりませんが、先生方のすばらしい指導で身につけた音楽、美術、体操、リズム表現、体育

レクリエーションは、是非子ども達に教え伝えたい。

- (2) 現地の子ども達には、こういった事は非常に役立つ事であろう。
- (3) 短期間であるために私の満足する程、身につけることが出来ず非常に残念であった。
- (4) 日本語学校を楽しく学べる所にしていきたい。

6. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) 今後共、この制度は続けてほしいと思う。研修確定の早期通知。
- (2) 短期間に修得できる楽器演習を取り入れてほしい（ピアノ……etc）。
- (3) 小学校の授業参観をもっと多くほしかった。
- (4) 私にとりまして初めての日本で、見る物、聞く物すべて初めてで、何もかも新しい物ばかり
沢山希望があります。その内の1つ、特に工場など見学したかった。

7. 所 感

長いようで短かった3カ月、教師としての自信もなく、能力のない私が日本での大学で研修を受けて理解出来るだろうか。他の人達についていけるだろうかと不安を持ちながら参加した私です。

先生方の講義の中でも、理解出来ない事が多くありましたが、しかし、わからないなりに先生の数々のお言葉の中から反省し、学ぶ事が多くありました。教師という仕事は、本当に大変な事であると心から感じ自分がこれまで何も知らないでやっていた事がはずかしく思いました。これも自分の勉強不足だと思います。

まだまだ、子ども達を教えるには、ほど遠いと思いますが、教師不足の現地では、二世の私でもやらなくてはならない事は沢山あります。学んだ事を現地に帰って指導し、私を取り囲む子ども達も楽しくゆかいに過ごしてくれると思うだけで私の胸はいっぱいです。各先生方の教えをいつも頭において努力していきたいと思います。

涙と共に深く受容した感激は一生忘れる事は出来ません。この度研修に御高配くださった事業団に厚く御礼申し上げます。

パラグアイ国アマンバイ県アマンバイ日本人会

梶 木 寿

1. 研修機関

玉川大学国際学部企画

2. 研修期間

1981年6月～1981年9月

3. 当初、研修に期待したこと

- (1) 現地日本語教育経験20年の教授法が正しかったかどうか確かめられる。誤りを直せる。
- (2) 日本の小・中学校の参観によって参考にできる。
- (3) 日本文化(社会)の物的、精神的な変化を実地に見聞できる。それをパラグアイと比較できる。

4. 研修概要

第1期研修(6月28日～7月19日)

児童心理学(日名子先生)	6月27日	都内見学
全人教育(岡田先生)	7月2日	玉川幼稚園参観
現地授業研究(正善先生)	7月7日	小学部参観
美術教育(佐藤先生)	7月9日	中学部参観
体育レクリエーション指導(石井先生)	7月11日	鎌倉旅行
海外日本語教育(上原先生)	7月17日	中間報告会
基本体操(中山先生)		
小学校の舞踊(岡田先生)		
児童音楽(朝日先生)		
日本語を考える(片山先生)		
大きな器具の運動あそび(古谷先生)		
小さな器具の運動あそび(永井先生)		

第2期研修(7月20日～8月25日)

教育学演習(岡田先生)	7月20日	スクーリング、オリエンテーション
現地授業研究(正善先生)	8月6日～8日	学校劇夏期大学参加
音楽教材(朝日先生)		
国語教材(上原先生)		
児童心理学(水口先生)		

第3期研修

京都・奈良見学	8月26日～29日
出身地研修	8月30日～9月6日
国際学友会日本語学校見学	9月8日
事業団最終報告会	9月9日

東京学芸大学付属、海外子女教育センター付属大泉小学校見学 9月10日

補習講座 9月11日

箱根小旅行 9月12日・13日

玉川大学修了式 9月16日

事業団閉講式 9月17日

5. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- (1) 現在の教科・時間割り・学校行事等を変更するつもりはない。
- (2) 子供達の心（心理状態）を判断し、それを大切にする授業を進めたい。
- (3) 低学年は、特に「遊びの中から育つ」ことに心がけ、“全人教育”を行いたい。

6. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- (1) 現地の日本語教育が「外国語としての日本語」か「母国語としての日本語」なのか、意見があるが現地の状態も日本語学校も種々雑多なのであって、そのことが分っていない人たちの意見のように私には思われる。どうしてそのことがさも重要な事のように議論されるのか。現地の人（移住者）が決めることなのである。要は、日本語教育をでき得る限り、実践することなのである。
- (2) 開講時「似た環境にある日語教師を選考した」という説明を聞いた記憶があるが、必ずしもそれとは思えない。

7. 所 感

- (1) 玉川学園はすばらしい学園と思う。環境は勿論だが、先生方、職員が一つに睦み合っておられるのは気持が良い。その学園で研修を受けられたことを幸いに思う。玉川大学の教育方針の良い点で実行可能なことを、私の学校にも導入したい。
- (2) 研修で確信が持てたり、なるほどと感心したり、非常に有意義な研修であった。今後の継続をお願いする。
- (3) 鎌倉・奈良・京都の古都を訪ねて、改めて日本の歴史のすばらしさと、その重みに深い感銘を受けた。この感動を大切に、現地の子供達に伝えたい。
- (4) 出身地研修で、母校の小学校も立派であった。遅く育っている子供達を見て安心した。中学には少々問題があるが（校長先生の説明から）時が解決することを信じたい。
- (5) 郷里の様子がすっかり変わって、現地で懐しく思い浮かべた“ふるさと”ではなかった。“ふるさと”がなくなった感がある。ただ、眺めて育った山は昔の山であったが、一つにはケーブルカーができ、一つにはホテルが建っていた。
- (6) 道路網の発達（舗装も立派）と工業の発展は凄い。都市も立派になった。すべての面で驚嘆に値する。一体どこまで発展して、どうなるのか心配なくらいである。

(7) 人情も細やかで親切。生活を楽しんでいる。

(8) 3カ月、私には大変であった。何しろ日本に着いて間もなく還歴を迎えた高齢なのだから。しかし、有意義な研修であった。

この3カ月間、事業団、玉川学園、その他関係された方々に、心から謝意を表します。それから、研修生の諸先生も私を気遣ってくださったことに、厚くお礼を申し上げ、ご幸福と子弟教育に努力なされることを願うものです。

アルゼンチン国ブエノスアイレス州西部日本語学校

塚田 翫

1. 研修機関及び研修期間

玉川大学文学部教育学科

1956年6月23日より9月17日

2. 研修期間の主な行事日程

6月22日 開講式、於国際協力事業団、歓迎昼食会、今雪移住部長、奥田国内事業課長、宮川海外事業課長、中谷参事、その他職員臨席。午後、外務省領事部へ大島移住課長表敬。

6月23日 開講式(玉川大学)、玉川学園案内、歓迎昼食会、ガイダンス講義担当教授紹介、学長表敬。以上国際教育室主催(室長 昌谷教授)

7月17日 中間報告、於事業団本部

7月20日 通大スクーリングオリエンテーション、於通信教育部研究室

7月22日 通大夏期スクーリング、入学式、開講式。

8月10日 中間報告会、於事業団本部。懇談会及び夕食パーティ。

8月14日 通大前夜祭に参加。

8月26日 スクーリング閉講式(玉川大学)、中間報告、西山職員(移住センター)。

9月9日 総括、於事業団本部。玉大塾学生(寄宿舎生)と交歓パーティ。

9月11日 夜コスモスに於て謝恩パーティ。出講教授及び関係の先生全員招待。

9月16日 玉川大学研修修了式、修了証書授与、学長主催サヨナラパーティ。

9月17日 事業団閉講式、研修証書授与、夜サヨナラパーティ、特に外務省移住課長も臨席。

9月21日 離日。

3. 玉川大学に於ける研修概要

第一期(6月27日より7月17日)

10人1クラスによる教授

児童心理学（日名子先生）	2コマ	基本体操（中山先生）	2コマ
全人教育（岡田先生）	4々	児童音楽（朝日先生）	3々
美術教育（佐藤先生）	3々	リトミック（玉川先生）	3々
日本語（片山先生）	3々	大きな器具の運動あそび（古谷先生）	1々
体育レクリエーション（石井先生）	2々	小さな器具の運動あそび（永井先生）	1々
海外日本語（上原先生）	2々	現地授業研究（正善先生）	5々

（1コマは1時限90分授業）

第二期（7月22日より8月25日）

通大スクーリングに合流（選択科目）

教育学演習（岡田先生）	8コマ	児童心理学（水口先生）	10コマ
音楽教材研究（朝日先生）	8々	現地授業研究（正善先生）	8々
国語教材研究（上原先生）	11々		

第三期（8月26日より9月17日）

主に見学及び旅行

全人教育（岡田先生）	1コマ	児童音楽（朝日先生）	1コマ
日本語を考える（片山先生）	1々		

（我々の要望による補充サヨナラ講義）

4. 見 学

- 7月 2日 玉川学園幼稚園部参観
- 7月 7日 玉川学園小学部参観
- 7月 9日 玉川学園中学部参観
- 9月 8日 国際学友会日本語学校
- 9月10日 東京学芸大学付属海外子女教育センター及び同大付属大泉小学校

5. 旅行と見物

- 6月22日 東京都内見物（ハトバス）、玉大昌谷、正善先生引率
- 7月11日 鎌倉方面見物、玉大昌谷先生・正善夫人引率
- 8月26日より8月28日 関西（京都・奈良）方面旅行、事業団西山職員引率
- 8月31日より9月5日 出身地研修旅行、出身学校（小・中・獣医）を訪問の後生家に赴く
- 9月12日より9月13日 箱根方面旅行

6. その他

- 8月6日より8月8日 学校劇夏季大学受講、於伊豆長岡温泉、日本児童劇作の会（会長内山嘉吉）

7. 当初研修に期待したこと

教師としての資格も経験もなく中年より偶然の成行きで全然方面違いの日本語教師となり、確たる方針もなく試行錯誤の連続ではないかと危惧しつつ現在に至った私は、今回の研修で児童を教え育てる、即ち教育とは何であるか私なりに理解したいと考え、児童心理学と教育学に大きな期待を持って訪日した。

又、外地に於ける日本語教育にはその言葉を通して日本文化を二世、三世に知らしめる事が教師として重要な課題であると平素考えている私には、日本の現実をこの目で見て飛躍した日本工業の一端を自信を持って児童に話すことが出来るのではないかと楽しみにしていた。

三番に留学・研修で訪日した教え子達の勉学状態や生活状態を見たい。特に速成日本語で留学する青年達に読む、書く、話すの何れにどんな比重をおくべきかを知り、今後の日本語教育の指針としたい。

8. 今後の現地日本語教師本邦研修制度について提言要望事項

a — 研修派遣教師の決定にもっと現地の意見を入れ、教師本人又その奉職する学校のみならずその地域（亜国にありては日語教育連合会など）にその成果が伝えられ、大勢の教師、父兄に影響を与え得る人を選ぶ。

b — 日本語教育を通じて児童に日本文化を知らしめる必要が切実であると考え、それには教師が日本を知る必要がある故に、少くも5年以上勤続した教師で公私を問わず、長年月に渡り訪日出来なかった者で研修帰国後、終身教職に耐え得る人が望ましい。

c — 旅行研修については、10数日を割いて旅行に当てるスケジュールが組まれていたが、これは長い間祖国を離れて暮した我々に対する労いかと思う。しかし、世界の先端に行く工業方面の見学がなかったのが残念であった。旅行の半分ぐらいを割いて自動車、弱電気、コンピューター等の工場見学は今後実現していただきたいと思う。

9. 経過及び所感

6月22日新宿三井ビルの45階にある国際協力事業団を訪問。今雪移住部長、奥田国内事業課長、宮川海外事業課長、中谷参事、その他の職員立合で開講式、自己紹介のあと、これから3カ月のスケジュールの打合せの後、今雪部長主催の歓迎昼食会に招かれ、会談は非常に楽しいものであった。我々の直接の担当は、友永久長、西山甲子男両職員で、両人とも外国勤務の経験豊富で我々を理解し、研修の終るまで非常に世話になったことを感謝したい。

同日午後外務省領事部に大島移住課長表敬訪問した。「私にできることならなんでも遺憾なく言っして下さい」と激励の言葉を受け忙しい中を一時間近く会談する。

6月28日玉川大学初登校入学開講式、本日より三カ月間我々の研修の世話をしてくださる国際教育室長昌谷先生、正善先生の案内で学園内を一巡、16万坪の広大な土地に立てられた幼稚園

から大学院までの校舎、男女2つの400人収容の寄宿舍、講堂を思わせる3つの学生食堂等々に一瞥した後、工学部校舎内にある学長室に小原哲郎学長を表敬した。学長から身に余る歓迎及び激励の言葉を賜わり、玉大シャツ(開襟の夏のユニフォーム)各々2着を下さり感激した。続いてガイダンス講義担当各教授が紹介され歓迎昼食会に招かれたが、各先生方いずれも私学の自由な良い面を持った方々で以後三カ月終始一貫おだやかに敬語を使つての講義と平素の友達付き合いには恐れ入った。特に目谷・正善両先生には玉大内だけでなく、観劇小旅行を含め東京の世相見物等々帰る迄公私に渡り大変お世話になり、楽しかった追憶はいつまでも続くことであろう。

東京の人波の中を歩き物を買ひ、レストランで食べ、乗物に乗り能楽堂の能・国立劇場の歌舞伎・末広亭の落語、又夜テレビの時代劇にかじりついて守衛に笑われ、兎に角現代社会の見物は研修に匹敵する効果があった。

国際協力事業団は前もって綿密なスケジュールを組まれ(例えば通学路線などはじめはどうしてこんな巡回をするのだらうと思つたが、それもラッシュを避けての事と推察出来た。おかげで往復共楽々と腰かけることができた)、特に3カ月我々起居の移住センターでは中島長市郎所長の意の下に家族的優遇を受け、所長からは2度も陣中見舞として全員レストランに呼ばれ御馳走になった。我々直接担当の石塚競職員の日を忘れた様な親身の努力に満腔の謝意を表したい。事業団、玉川大学、移住センターとそれに属する人々の暖かい好意に囲まれた三カ月の猛暑中の研修も楽しく、終つて振り返ってみると自画自讃かも知れないが、出来得る限りの努力はしたつもりである。只、今後これをいかに実際の教育現場で生かして活用するかである。同僚教師の方々にもレポートするつもりである。

玉川大学では各先生方皆熱心に汗を拭きつつ教えてくださったが、特に私の意に一番適つた日名子先生(児童心理学)、片山先生(国語)、両先生の講義が時間の関係で尻切れで終つたことは惜しかった。来年からの研修生のためにも是比両先生の時間を長く用意し、一貫した講義をお願いしたいと思うのは私だけではないはずである。朝日先生(音楽)には今迄音楽唱歌は総て女の先生方にまかせていた音痴の私に意欲が出て自ら音楽らしきもの?を教える様になつたことは貴重な成果である。

現在現地の学校に帰り3カ月の研修を静かに反省している平凡なる私が、純心無垢なる児童を教え育てるそれ自体が大それた事であり、その責任の重大さを痛感する今日此頃である。

1. 研修機関

玉川大学国際部企画

2. 研修期間

昭和56年6月19日～56年9月18日

3. 当初、研修に期待したこと

(1) 複式授業により効果的な方法

(2) 中南米における日本語教育法

○ニカ国語を無理なく修得していく日本語である教育法

○言語教育の指導方法

○視聴覚教育法

(3) 現地派遣教師へ

現地教師への日本語教授法の研究と予備知識を修得していただきたい。

4. 研修概要

第一期基礎教育指導

全人教育（岡田教授）

基本体操（中山教授）

児童心理学（日名子教授）

児童音楽（朝日教授）

海外日本語教育（上原教授）

小学校の舞踊（玉川教授）

美術教育（佐藤教授）

大きな器具、小さな器具の運動あそび（古谷、

体育レクリエーション（石井教授）

永井教授）

現地授業研究（正善教授）

玉川学園附属幼稚部参観 7月 2日

日本語を考える（片山教授）

玉川学園小学部参観 7月 7日

鎌倉見学旅行 7月11日

第二期玉川大学夏期スクーリング（7月20日～8月25日）

教育学演習（岡田教授）

国語教材研究（上原教授）

音楽教材（朝日教授）

現地授業研究（正善教授）

学校劇特別研修都市センターホール

選択科目

（8月1日）

保育内容音楽リズム（迫教授）

学校劇夏期大学 伊豆長岡

音楽一般（江口教授）

（8月7日～6・8日）

第三期研修

関西方面旅行（8月26・27・28・29日）

出身地研修 福島県いわき市

国際学友会日本語学校見学（9月8日）

東京学芸大付属海外子女教育センター、大泉小、帰国者子弟学級見学

伊豆箱根一泊旅行

5. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- (1) ポリビアの征本久美子さんが二世で始めて研修にこられたということは大変よろこばしい。
今後我々ドミカ生まれの現地教師養成方法を考えるべき時にきている。
- (2) 国語教科書のみならず、紙芝居、カセット教育、ひらがな、漢字カードなどを取り入れ、多様な学習活動をつくりだしていききたい。ビデオテープによる教育、幻燈会、発表会の機会を多くする。
- (3) 研修の中でも音楽リズムという新しい科目を選択でき活用することができます。此の教材で日本語勉強の楽しさを持たせたい。
 - 子供たちの想像と創造的自己表現の芽ばえはどこにあるのだろうか。その感覚の芽ばえを（一人一人）大切にしていけるのが我々教師の道である。
 - 即興性を生かしているいろいろな子供たちの好きな言葉を作詩して歌える楽しさ。一つの歌の中に物語をつくり劇を構成する楽しさがあるので楽しみです。
- (4) 視聴覚教育、いわゆる耳からの学習法に力を入れる。
- (5) 子弟教育の充実向上に努め、父兄への教養を高め一層の学校への協力を望みたい。

6. 今後の現地日本語教師本邦制度に対する提言要望事項

- (1) 国際学友会日本語学校授業参観を増やし指導技術を学びたい。
- (2) 現地教師同志の横のつながりが欲しい。
此の研修を有意義に継続する上にも、又、共通問題を相談し解決する機関が欲しい。
- (3) 移住国での日本語教育は、赤子教育からの指導が必要である。その為の教師の工夫した教材なり、上記した視聴覚教育によるビデオ・テープ（教育関係例ビデオ・ジャポニカ制作）中南米に回して頂きたい。
- (4) ほとんど我々は農業移住者である。現地の青年たちの良き指導者として、農村における若者の青年活動を見学したい。農家における子供はどのような手伝いをしているか、どんな考えを持っているか。

7. 所 感

教育者が本来の職務として誤まってならない絶対は、児童の生命及び成長を人間の悠々たる存

続の道の上に重ねさせることである。世の中の生きている生命を守ることである。自分の子供を捨ててまで他人の子供を守らねばならない義務がある。子供の成育に感心を持ち、子供達と接触しなければならない。

また、言語援助においても人間の音色の方がずっと大切であることを忘れず、子供の素直な表現を無視してはならない。教科書を教えるばかりでなく、人づくりをすることが大切で、絶対子供から離れてはいけない。教育者としての自身をもち、研修できた各教科の教材、教具の利用、視聴覚教育のまねごと、そして南米の先輩たちの学校を見本とし、良きところは取り入れ改善することにより将来の学校への希望にもえています。

移住が途絶えたわが国では、日本人子弟教育に力を入れなければ、一世は孤独の状態になりやすい。移住当時の子供は農業の手伝いをさせたため教育が中途半端で、青年時代を終った子供が多い。それに気がついた一世は現在、孫に対しての日本語教育に熱を入れ子弟教育に期待をかけている。

あるコロニアでは一世の力で立派な公民館兼日本語学校が設立された。このように将来たくさん楽しみがあり夢があります。

ペルー国リマ県ワラル日本人学校

森川 早苗

1. 研修機関

玉川大学国際学部企画

2. 研修期間

56年6月～56年9月

3. 当初、研修に期待したこと

- 文法、文型、教授法、カリキュラムの組み方、児童心理学
- 授業参観（外語大学、学芸大学）小学、中学
- 三世、四世を対象としておられる中南米の研修生である先生方に教授法、問題点、実績、その他お聞きしたい。
- 実際に日本で使っている日本人の言葉を学校で、町で、田舎でじかに聞き役立せたい。
- ワラルは日系人で経営するワラル・インカ学園を建築するべく計画を進行中であるが、その為の知識、例えば設備、運営法、カリキュラムの組み方等。
- 日本の教育法はすばらしい。しかし、その教育法が児童の心理が一致しているか、学校教育、

家庭教育のあり方等についてこの目でたしかめてみたい。

4. 研修概要

6月19日～6月23日 移住センター入所、開校式、国際協力事業団、外務省、玉川学園表敬訪問。

◎第一期（6月24日～7月19日）

○児童心理学 （日名子先生）

児童ということば、日本の教育制度、感覚、感覚機関の発達の違い、学校教育、家庭教育、子供の発達、幼児教育の大切さ、子供教育をする時期、ことばの学習、ことばの文化、現地の日本語教師……日本語を教える前に日本人であることを教えよ。

○美術教育 （佐藤先生）

日本教育のシステム、造形、造形の分野、戦前、戦後の違いについて、世界の児童画集、ダンボールを使っての工作。

○海外日本語教育 （上原先生）

中南米視察旅行……感想、現在日本語教育の問題点について

○児童音楽 （朝日先生）

愛吟集より、歌あそび、春夏秋冬より

○基本体操（中山先生） 体育の心得

大きな器具を使った体操（古谷先生） 基本の運動

小さな器具を使った運動の仕方（永井先生）

○現地授業研究 （正善先生）

日本での小学校国語指導要領の説明、中南米教師、現地報告

日本を考える （片山先生）

原語、音声

○全人教育 （岡田先生）

今日の教育のあり方、記録映画

リトミック （玉川先生）

音を体で表現、器具を使ってリズム

○体育レクリエーション （石井先生）

リーダーの心得、歌、ゲーム

◎第2期 スターリング 7月22日～8月24日 前期

○教育学演習 （岡田先生）

記録映画、児童劇、授業とは、音楽、想像……表現、踊り……リズム

○現地授業研究 (正善先生)

日本の小学校指導要領、中南米教師現地報告

○音楽教材 (朝日先生)

愛吟集、歌あそび、歌の心、命のつかみ方、リズム、日本の音階、指揮法、出合う大切さ、
笛のみき方、合唱

8月6日～8月8日

○学校劇夏期大学……伊豆長岡

音楽のある劇指導……作曲家(森瑤子先生)

中学年の劇指導……玉川大学(金平正先生)

8月11日～8月24日 後期

○国語教材 (上原先生)

教育者の自覚、初等教育資料について、現在のことば、時枝言語感、教育演習

○現地授業研究 (正善先生)

日本語、発音、中南米教師現地報告

○体育レクリエーション (石井先生)

指導者論……リーダー、ゲーム、ソング、オリエンテーリング、キャンプ、健康体操、野
外活動論、社会教育における体育、レク指導者チェックポイント、ジョギング、簡易スポ
ーツ

小 旅 行

東京都内見学……6月27日(土) 鎌倉方面……7月11日(土)

◎第3期研修 8月26日～9月17日

関西旅行 8月26日～8月29日

出身地研修 8月30日～9月6日

国際学友会日本語学校見学 9月8日

東京学芸大付属海外子女教育センター付属大泉小見物 9月10日

箱根方面流行 9月12日～9月13日

玉川大学修了式 9月16日

事業団閉講式 9月17日

5. 今後の日本語教育活動への抱負(研修の生かし方等)

子供達が自由に日本語で会話が出来、又一番楽しみとなっている一世との会話が出来、日本人の
血を引いた日系人である事を自覚させ、信用される社会人になってほしい。

現在まだワラルは軌道に乗っておらず(日が浅い為)三世、四世に日本語を教えることは難し

い。生徒自信も覚えにくく忘れ安いのではないかと思う。特に低学年の場合は、楽しく教える事が必要である。色々工夫しなければと悩んでいた矢先、玉川での勉強である。特にすぐ役立つ事は、中南米研修生の現地報告、朝日先生の音楽、石井先生の体育レクリエーション、これらはすごく私に刺激になり夢が湧いてきた。しかも一般の人達にも利用出来る日本語を教えていくには、先ず親から知識を取り入れなければならない。その為にも多いに役立つ。又、学芸大付属小、国際学友会の授業参観、これも私選に教え方が似ていた。指導法等多に取り入れ新しく出来るワラルインカ学園が日本語を通して、習慣等取り入れたりし、父兄からやはり安心して子供を預ける学校を作り、ここで学んだ子等はやはり人間的に成長した日系人と云われるように指導したいのだが、地方であっても中心地の学校に負けない(すべて)ように頑張りたい。その為、出身地研修の時訪問した学校の運営法、カリキュラム、設備等を参考にしたい。

6. 今後の現地日本教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- この研修制度は是非とも続けてほしい。派遣教師と共に学ぶのも良いが、実際に日本へ来ると言う事は“朝起きてそれから一日が終り床に着くまですべて勉強である”。机に向っていても、又本を読んだだけでは理解出来ぬ事が直接学べる。
- 研修生の年齢はよく考えてほしい。今のカリキュラムでは年配の方には体力的に無理があるから……。年配の方には別の方法で日本へ呼んであげてほしい。
- なるべく同じ地域からは2人選ばないようにしてほしい。なるべく多くの地域の人が参加出来る為に。
- もっとカリキュラムを吟味してほしい。文法、文型、教授法、カリキュラムの組み方、児童心理学、国語を増やしてほしい。音楽、体育レクリエーションも続けてほしい。
- 出来ればスクーリングの授業は選択させてほしい。
- 授業参観日数を増してほしい(特に学芸大学、国際学友会等)。
- 派遣教師の場合なるべく玉川大学の先生は我々が教った先生にしてほしい。又指名させて頂ければなおよろしいと思います。
- リトミック、教育学演習、もう少し少なくしてほしい。
- 研修生を選考される時点ですでに計画表とか書類いっさい送って頂きたい。不安も少なく、予備知識を得る事が出来、日本での勉強をもっと有意義に出来ると思う。

7. 所 感

3ヶ月間色々勉強させて頂き先ず申し上げる事は、国際協力事業団本部の皆様、海外移住センターの皆様、そして心から我々に教えて下さった玉川の先生方に心から感謝とお礼を申し上げたいと思います。おかげで何事もなく無事終了させて頂きました。思い起せば第一期は時差ボケ、梅雨の蒸し暑さと緊張感、電車で通学でのラッシュ、なれない階段にすべてに一度に挑戦した為か、

我々が一番必要とする授業が身にいらずとても残念に思いました。せめて授業内容でも事前にわかっていたならば又別であっただろうと思います。又、スクーリングは日本全国の小・中・高等学校の先生と働き乍ら先生の資格を取られる方々と共に勉強させて頂いた。どの顔も真剣でいつの間にか私も引き込れて授業を受けたのだが、授業によっては国の事情も違うし、レベルも違うので理解しにくい所もあった、抵抗も感じた事もあった。しかし、日本全国の人達と語り合えて色々非常にプラスになりました。これからも色々教えて頂けると思います。しかし何よりも感激は、玉川のどの先生も我々に真心を持って接して下さいました。幼稚園から大学の生徒さんまで歓迎して下さい胸が詰まる思いでした。特に印象に深った事は通大祭である。ペルーのインディオ踊りを振り付けをさせて頂き、又大成功に終わったと云う事である。すばらしい思い出になると思います。又国は違っても、それぞれ同じ悩み、又それに近い悩みを持ち合せた研修グループと心ゆくまで話し会えたのも成果の一つだと思います。たとえ別れても横のつながりは切らないようにお互いに発展の為に頑張りたいと思います。特にワラルの場合これからの学校で、玉川で学んだ事、自分で調べた事をもとに頑張りたいと思います。そして、どの人達にも負けないうようにりっぱな学校を建設し、ワラル発展の為につくりたいと思います。しかし、只一つ出来たら5年後、10年後もう一度是非呼んで頂いて、勉強をしておし、どの位成果を上げられたか調べてほしいと思います。そうすればもっと自信がつくのではないかと思います。

書けば色々ありますが、とにかく私にとってすばらしい経験になりましたし、やはり現地に帰りましてもっと信用されると嬉しいですので活動もし安いと思うのですが……。

この3ヶ月間本当にありがとうございました。

研 修 日 誌

第3回現地日本語教師本邦研修日誌

6月19日 金曜日 くもり

13時15分バリダ882便にて成田空港に到着(9名)

想像以上に寒く全員驚き、何十年振りに踏む母国日本の土に感激、成田空港より本部の西山甲子男氏の引率のもとに宿舎となる海外移住センターに午後5時30分頃到着。

宿舎にて予定の10名全員揃う。

メンバーの紹介

酒井政廣	先生	サンパウロ
木内務	〃	〃
佐々木那子	〃	ベレーン
大西保子	〃	〃
西山喜多雄	〃	レシーフェ
笹本久美子	〃	サンタクルス
梶木寿	〃	アスンシオン
矢内愛子	〃	サントドミンゴ
塚田 弼	〃	アルゼンチン
森川早苗	〃	リマ

部屋の割り当て、荷物の整理

午後6時 移住センター

所長 中島 長市郎
総務課長 吉松 豊
担当 石塚 競

の方々に挨拶、夕食、その後講義室にて、外出、外泊について、門限、食事時間、方法、病気になった際、地震、火災発生の場合、その他色々な手続き等の説明と滞在費について説明があり、そして自己紹介。

この度のメンバーの団長を酒井先生、副団長を佐々木先生に決める。ほとんどの先生がペルー、リマにて揃われたがお互いを知る由もなく、ただそれぞれ不安と期待でよけいに疲れてしまった。もし何らかの方法で顔見知りする事が出来たとしたら空の旅も快適に、又不安もやわらいだのではないかと思う。

来年からは何らかの方法を考えてほしいし、研修に必要な書類を早めにとって頂けたなら幸いです

思う。

森川 記

6月20日 土曜日 くもり後雨

午前7時起床

時差の関係上、案じられた第一夜も全員安眠され、午前8時には快適な朝食をとった。

午前9時より4階の講堂にて開所式が行われた。

開所式の式次第

1. 所長挨拶
1. 自己紹介
1. スケジュール等、オリエンテーション
1. その他

開所式には、

国際協力事業団海外移住センター所長	中島長市郎
国際協力事業団東京本部より	友永 久長氏
〃	〃
〃	西山甲子男氏
〃	海外移住センター総務課 石塚 競氏

研修生10名によって行われた。

引き続き第一講義室において、友永氏、西山氏より月曜日から始まる研修について説明があった。

- スケジュールについての説明
- 研修生の保険制度について説明
- 研修生に対して注意事項
- センターより玉川学園迄の通学路の説明及び定期券購入等の説明があった。

12:00～12:30分迄昼食、午後よりフリー

午後より外出、外泊者

酒井先生、木内先生、矢内先生、佐々木先生、笹本先生

午後1時30分より、東京本部の西山氏と共に定期券購入に行った。

根岸駅、横浜駅まで

同行者、西山先生、森川先生、大西の8名

センター宿泊者

西山先生、榎木先生、森川先生、大西の4名

大西 記

6月21日 日曜日 くもり

早朝より、又昨夜からそれぞれ買い物や知人宅訪問。今日は食事は一日中外食。門限までに全員帰る。

佐々木 記

6月22日 月曜日 くもり

西山氏、石塚氏両職員の引率にて、海外移住事業団本部及び外務省を表敬訪問する。

電車は、混雑するという程ではない。新宿駅の広大さと人の波に驚く。紙片一つ落ちていないのは見事である。切符を切る駅員の機械的な動作と無表情な顔が印象的であった。そう言えば、一般的に乗客の服装は立派で、経済的に余裕のある顔（表情）はしているものの、どことなく無表情に見えるのは私だけなのだろうか。

出口の右側に並んだ店舗には、あらゆる商品が美しく豊富に、しかも整然と飾られている。特に肉類・魚類などが、手頃の大きさの容器に入れられ、加工年月日を記した紙片が添付されているのはさすがであり、食感をそそるに十分である。

まず、正午頃新宿三井ビルに若く。同じような高層建築が7棟あるとか。まさに「天を突く」という感じで、天候のせいもあって、最上部はかすんで見えた。もし自由であったら私は半日でも眺めて感嘆していたい。ビルの前は広く、樹木の美しい庭であった。

24年ぶりに、エレベーターで45階に上る。高速のためなのか、耳に違和感を覚える。

国際協力事業団移住事業部応接室に入る。今雪史郎部長の慰労と激励のことばと簡単な質問の後、別室の広間（会議室？）で、同部長、奥田国内事業課長同席、昼食会に出席する。

大きい黒色の重箱（弁当箱のはずはない）に興味を覚える。何かの葉に包まれたうずらの卵大で、薄緑の餅状の物体を、私はしばらくこねたり嗅いだりしたのだが、分からなくて尋ねてみた。やはり餅であって、それらしき味はした。海老、刺身、卵焼き、焼魚、かんでん、その他60才にもなるこの年まで、かつて見たこともない超小型の食品が仕切りの中に、美しく並べてあって珍しいのだが、餅までとは私の思考以上である。人間は長生きしないといけない。

食後、研修生各人の移住地、国語学校（教育）の概要を、自己紹介を兼ね説明する。

部屋の窓からは、遙か下方に霧（煙）にかすんだ市街が望める。換気が十分でないように感じる。

三井ビルから外務省までの建物も大きく、特に街路樹のいちようは、「緑したたる」と言う表現が当てはまり、建物とよく調和して美観である。

外務省は、さすがに世界の日本の外務省にふさわしく、重々しく堂々たる建物である。守衛が厳しい。ふと旧軍隊の衛兵を想起する。

外務省領事移住部の応接間に案内される。大島移住課長の外一、二の方が見えられ、大島移住課

長よりねぎらいと励ましのことばのあと、研修生からの校舎建設資金の援助依頼、教材不足、その他悩みや希望などが出される。関連して、日本の国債、予算の話も出る。

船途、地下街で傘などの若干の買い物をする。地下は暑くて、早々に待ち合わせ場所に戻る。地下鉄を利用して船路に着く。世界第三位の生産量を誇る首都の交通網の発達は、唯々驚嘆するばかりである。

(追記)

私事で恐縮ですが、道中私に座席を勧めたり、その他気遣ってくださった先生方に、心から感謝致します。8か月間よろしくお願いします。

榎木 記

6月28日 雨午後晴

8時半友永職員引率にて玉川大学表敬訪問

10時半同校国際教育室室長及び正善先生の先導にて玉川学園内を案内される。

面積16万坪で広さは筑波大、東大について8番なるよし、しかし学生は幼稚園より大学迄全部で10,000と割合に少く全人教育をモットーとする学園として名高いがその全部を一廻り案内していただいた。建物は幼稚園から始まって文学部第2校舎、学生食堂(大きいのが4つある)、松下村塾の複製、咸宜園、礼拝堂(創立者小原先生の旧住宅)大鼓橋小学校、中学校校舎等々……又アンデルセンと子供、良寛、シュナイダー(日本ヘスキーの紹介者)その他の銅像など、その広大な緑の中の学園に驚嘆した。

12時工学部内にある国際教育室にて、これから教える各教授の先生方と昼食会ガイダンスを行う。

下記出席の先生方の名前及び専攻

相原先生	国際教育室長	平山先生	中学部長
橋本先生		佐藤先生	美術
片山先生	国語	岡崎先生	学校劇
中山先生	体操	朝日先生	音楽
渋谷先生	スクーリング	南崗先生	

我々研修生の自己紹介のあと岡田、渋谷先生より激励の言葉を賜わり、使用する教科書7冊配布される。

18時同学園短大内にある学長室に学長表敬、酒井教務課長同席にて学長よりユーモアたっぷりのお話を拝聴、その人柄の一辺を知ることができた。

明日よりいよいよ開講である心気一新努力すべく研修生一同にて話し合う。

塚田 記

6月24日 水曜日 くもり 午前中(涼)午後(暑)

また時差はけのとれない先生がいる。夜ぐっすりねむれない先生もいる。しかし今日より授業開始、昨日西山職員引率で二時間かかった学園までの距離、今日は三十分短縮、今日より昼食は自前なので、授業前食券を買っておく、その日その日しか売らないので不便、第二時限より(午前10時40分)文学部第二校舎の502号室にて、日名子先生による児童心理学より私達日語教師の授講開始、以下その日の授業

第二時限 10:40~12:10 児童心理学 日名子先生 文II 502

第三時限 13:00~14:30 全人教育 岡田先生 文II 会議室

第四時限 14:40~16:10 現地授業研究 正善先生 文II 502

「児童心理学」

出席児より聴覚あり、いかに幼児教育の大切さの講義、日本の現状、児童教育の法等を学ぶ

「全人教育」

今日の教育のあり方の説明後、記録映画「さくらんぼは坊や」(埼玉県の幼稚園の育成状態の記録)子供の全面発達、調和発達を映画により学ぶ

「現地授業研究」

研究資料としてアンケートを全員書く。

この時間は、H・Rもやる。

正善先生が私達の担任教授で今後現地授業研究とH・Rは続けるとの事。

今日初めての授業で教室もよく解らずとまどったが、その度に正善先生が現われ助かる。

木内 記

6月25日 木曜日 くもり後晴

今朝は全く梅雨の朝といえるような今にも小雨の降りそうな模様である。全員元気旺盛、学園にとセンターを出発する。

精神的にも落ちつきがとれ電車等の乗降も余裕しゃくしゃくとして順調に学園に進み10時10分到着。先づ食糧確保の為学園食堂にて各自において思い思いの食券を求める。

第二時限 10時40分~12時10分まで

美術教育と題して 教授 佐藤先生

要 点

1. 子供は遊びの中より大きく育てゆく
2. 文部省検定教科書等にて型的なる教育法よりゆとりのある大きくはばを持たせた教育法と変る。

今日の授業は午前中で終り、各自の食券にておいしい食事を求め昼食をすませる。榎木先生が自動販売機を利用され、うどんを食べられたのには感心ときょう味を得た。さすが日本の進歩には驚いた。全員船途に着く。今日のかんない駅にて下車。ドルの交換、其の他買物等を済ます。夕食時石塚職員より預金の引き出しに付き詳細に説明があった。更に続いてセンター所長と牧利保先生が夕食に参加され所長より牧先生の紹介があり美味しき日本酒を頂戴し解散する。

西山 記

6月26日 金曜日 くもり

日本到着一週間が過ぎたわけだが、ひどく眠く、疲れがひどい。私の場合はもし訪日できなかったら、前の様にひどくがっかりするから「絶対準備をしたり、考えたりしないでくれ」との家族の“要請”により、決定して二週間の間に朝は暗いうちから、夜は10時すぎまで毎日授業をしての多忙の中を訪日準備、私の留守中の授業準備、3か月間の買物(家庭の)etc.その間に、次々とお祝いに来てくれる人達の応待で、出発2、3日前頃からは、来る人、来る人が「先生病気じゃないですか」と言われる程疲れて飛行機に乗り、時差の関係もあり、今まで毎晩睡眠薬を飲んだのに、平均約2時間ぐらいしか眠っていない。

しかし、今日は余りにひどいので他の先生方にも聞いたら、征本先生以外、皆今日は特別つらいとの事であった。

授業は、

第二時限 日本語を考える 片山先生

第三 “ } レクリエーション 石井先生
第四 “

であり、片山先生の日本語の発音についての講義は、今まで“多分そうではないか”と思いつつ、教えてきたのが学問的に確認され、とてもうれしかった。

石井先生のレクリエーションには、そのユーモラスの話し方に爆笑について爆笑、塚田先生などはいつまでも笑いが止まらず笑っぱなし、又こちらもさそわれて笑い出す。

しかし、その内容はとても帰ってから役立つものであった。私の最も欲していた“楽しい教室”をつくるのにとっても役に立つと思われた。

唯、残念な事は先生のもって来られた沢山の本。喉から手が出るほど欲しいが、その中の何冊を買って帰れる事か。

夜、初めての"およろ"があり、全身の疲れがとけて行くよう、久しぶりによく眠れた。感謝。

酒井 記

6月27日 土曜日 くもり後小雨

今日は東京都内見学。朝7時半、小雨の中センターを出て一路東京へ、東京駅で西山先生が一緒でないのに一同びっくりするが、三車おくれて到着(忘れ物をされ途中で引き返された由)ちょっとしたハプニングであったが無事着かれ安心。

はとバス発着所で正善先生、昌谷先生が待っていて下さる。9時半出発。

今日のコースは皇居前、浅草観音、東京タワー、明治神宮、NHK放送センター、そして最後に靖国神社。

かれんなガイドさんの説明に一同聞きはれ、何年ぶり、あるいは何十年ぶりの東京見学を楽しむ。皇居前では芝生と松の木の美しいコントラストにしぼし感嘆。もやの中の皇居二重橋を背に、ここで記念写真をとる。こちらは別の記念に、皇居前の砂利を少々失敬してポケットに入れる。

浅草観音の仲見世では、見るもの全部買いたくなる程、あらゆるみやげ品があり、特に日本色豊かな小物類に目をうばわれ、買いあさりたい気持だったが時間とサイフの中身に制限あり(サイフは私だけかも)残念ながら次回に見送る。(中々沢山の買物した先生もあり)

東京タワー、地上150mの展望台より地上を見るが雨曇りの東京は、あまりパッとせず。しかしながら何とすごい都会であろう。まさに世界の大都市だ。目まいを感じるのは高さのせいばかりではなさそうだ。

NHK放送センターでは、見学通路から下を見おろすようにして、番組の制作過程を見たり、テレビニュースキャスターの席にすわってテレビに写って喜んだり、走る新幹線のセットの仕かけになる程こういうことであったかと感心したりおどろいたり。

緑豊かな明治神宮。皇居もそうであるが、都会のどまん中にこんなに豊かな緑があることは幸せなことだと思う。南米の緑とは又違う。やさしい緑だ。日本全国から集められた木々で出来た森ということ。静かな参道を行く時ふとここが大都市東京という事を忘れてしまいそう。

戦い散った人々の霊をまつる靖国神社。明治神宮とは又別のおごそかなたたずまい。門前の一兵士の遺骨に胸うたれる思い。只ここにも「みたまあめ」などというものが売られ、こういうものさえ売りもののタネにする商魂に少々イマイマシさを禁じ得ず。

約7時間の見学コースを終え、再び東京駅へ。ここでセンターに帰る者、知人友人宅に行く者に

別れる。大変すばらしい観光であったが、皆相当疲れた様子だった。

私達一同に初めから終りまでつき合ってた正善先生、正谷先生のお二人に感謝します。

佐々木 記

6月28日 日曜日 雨後くもり

今日は第二回目の日曜日

それぞれ自分の里や友人宅、又買い物に思い思いにお出かけになった。

あいにく朝は雨模様で雨寒かった。

私は横浜迄足を伸ばした。

いつもは、どこを見ても人、人、人で日本人ばかり、しかも足の早いこと。

電車に乗るのも降りるのもラッシュとなると本当にすごい。まるで“トコロテン”を押し出すようだ。

人間わざとは思えない。

今日は日曜日心なしか人間らしい人の流れに安心したのだがこれは私の気のせいだろうか。

夜全員帰舎、それぞれのみやげ話して花を咲かす。

明日から又頑張ろう。／

笹本 記

6月29日 月曜日 晴

全員元気に登校

第二時限 海外日本語教育 上原先生 文II 301 上原教材研究室

- 1) 中南米の日本語学校を視察しての各国の感想発表
- 2) 海外日本語教育の序論

教育とは自然的発達である。生まれた時から環境と共に年月をかけて育っていくものである。

外国に於いての日本語教育はその環境に反し意識的な語学勉強にすぎない。

◎日本語教育は体質にかかわる日本語教育でなければならない。

我々現地教師の大きな課題であると思う。

第三時限 現地授業研究 正善先生 文II 405

- 1) H・R

第29回学校劇夏季大学参加についての説明

2) 日本での小学校国語学習指要領の説明

第四時限 美術教育 佐藤先生

1) 世界の児童画集の観賞

2) 色あそび

教材は三枚の色紙にいくつかの点を打ちそれぞれの点を結びそれを切りはなし配色を考えてもとの形を作りあげるあそび

三つの条件

- a 色彩感覚を豊かにする。
- b 配色遊びの中で色を覚えさせる。
- c 色に興味を覚えさせる。

◎新しい教育法として大変興味のわく頭の使う楽しい勉強であった。

矢内 記

6月8日 火曜日 曇り後雨

今日は先生方の中はかなり体調をくずされた方がおられた。中には登校中途下車されるということになり一騒動になったが、運良く仲間に看護婦をしておられた方がいて安心しておまかせすることが出来た。しかし、授業には間に合って一同安心。国を代表して来られた責任を強く感じ、お互いに助け合い、助けられ1人の落ちこぼれもない様頑張っている。到着すると初めて運動着に着がえ、さっそうと第1時限目に出席。

10時40分 美術教育 佐藤先生

時間が来たがあちらこちらと教室の移動、木工室にて授業を受ける事になったが実際は背空教室。

1. ダンボールを使っての工作 積み木 ゲーム遊び

- 戦車8輪車のような物を作り、中に入るところが。まるで白ねずみが輪をころがすみたいに。これが結構運動会の競技に使われると一同大喜び。
- 輪投げ、これもダンボールで作り全員で遊ぶ。
- 箱を二列、それぞれの間隔を置いて並べその中に入り、残りの人がその間を上手に通りぬける。箱の中の人を通る人をさわるのだが勢い箱ごとひっくりかえったりして、とても楽しい授業となった。

その後 美術教育の説明

1. 最後の楽しみを餌にして造形する。
2. どんな遊びをするか。

8. ゲームは何で作るか ア 身のまわりにある材料→雑材
4. いかにして色をつけるか
5. ゲームの安全性を考える

美術とは絵を掛くことだけではないと強調された。

とても楽しい授業だったが今日が美術教育の最後の授業で全員別れを惜しむ。

昼食後 正善先生の現地授業研究

授業の前にH・R

1. 研修生一同の名簿を渡される
2. 塾生の夕べについて
3. スクーリングについて→県大会の活動には参加せよとの事
4. 第29回学校劇夏季大学の選択の申し込み
5. 通大祭について

授業 日本小学5年生の学習指導要領から

1. 表現について説明

指導要領は学年毎に程度が少しずつ上がると説明された。

第4時限 基本体操 中山先生 大体育館にて

先づ広々とした立派な設備の体育館にただただ目のみはるばかり、何組かの生徒の授業が行われている中へ我々若人？も気分をひきしめ授業に望んだが……………先づ体育の心得、基本の運動等について説明

中山先生は正座、生徒の我々はくずし申し訳ない気がしたが向こうの習慣が身につけてとても真似が出来なかった。

数多くのゲーム遊びを実際に体を使って全員がやる。

楽しいということを通り越して爆笑につぐ爆笑、腸ねんてんを起すのではないかと思われる程に笑いこぼれ、又十分に体を動かし汗を流した。いつも階段の上がり下り位でまともに体を動かした事がなく、すっかりうっ憤を払い、どの顔もスカッとしていた。又明日が楽しみ。

授業の後、すっかり日本の天気予報を信じたものの雨にやられびしょ濡れ、もう天気予報は信用しないと話し合う。

又、今日は榎木先生が60才の誕生日をお迎えになった。突然で何も用意出来なかったが、ささやか乍らお祝いをする。益々御健康で御活躍をされるよう一同お祈りする。

森川 記

7月1日 水曜日 くもり

玉川学園についてから、男の先生が1人足りなくて皆で心配したが、第1時限目に少し遅れて到着（昨日の体操がかなりこたえたらしく、電車の中で居眠りし、終点まで行ったり来たり何回かして遅れたとの事）、笑い話のようだが無事だったので全員安心した。

授業が始まる前に昌谷先生より連絡事項があった。

- 7月17日に事業団の西山氏がセンターに事務連絡に来て下さる事。
- スクーリングについて……等である。

第2時限 児童心理学 日名子先生 教室502 10:40～12:10

○ 前回の復習

- 小さい子供のテスト法……観察法（行動と心を外から観察して採点する）

比較教育学（動物と人間、正常者と異常者、文明人と未開人）

- Portman（ポルトマン）の提言、人間はどこまで動物であるか？

- Follow Through（アメリカ）の子供を教育する時期、脳細胞のふえ方が登り坂の2～3歳の頃からやらなければいけない。「三つ子の魂百まで」という諺どおりである。

児童心理学と聞いただけで尻込みしていたが、受講してみて、日頃子供達に接している私達にとっては必須科目であり、大変楽しみにしている。

第8時限 全人教育 岡田先生 会議室 13:00～14:30

映画 ① さくらんぼは保育園

0～1才の子供の保育の様子、個人の個性、感じ方を大切に育てていく。

② 動きの探究（アメリカ映画）

子供は、身体の動きで表現し、自信を持つようにさせる、……等映画によって学ぶ。

第4時限 基本体操 中山先生 大体育館 14:40～16:10

昨日、久しぶりの体操で嬉しくなり、全員ハッスルし過ぎ今日は、かなりの後遺症？が出た方もいたが、この時間になると後遺症も忘れ、思いきり体を動かし汗を流した。音楽のリズムに合わせて歩いたり、とんだり、その間にゲーム遊びもし、爆笑、爆笑……。体操が終わった後、昌谷先生より連絡事項あり、国際教育室応接間、16:30～17:00

相原先生より、玉川学園長よりのプレゼントと、玉川学園よりのプレゼントを頂く。

男の方には、学園の夏服二枚づつ、女の方には、袋とスポーツシャツを頂いた。

スクーリングの申し込み書にそれぞれ記入して提出した。

夕食が遅くなるので酒井先生がセンターに電話を入れた。

今日の帰りは、二日続いた体操がこたえたのか、全員足が痛み、歩く姿がなんとなくぎこちなかった。夜は男性群はかなり早く休まれたようだ。明日は、幼稚部参観のためいつもより1時間

余り早く出なければならぬ。そのためであろう。

大西 記

7月2日 木曜日 雨

玉川学園 9:30集合のためセンターの朝食ぬき

全員7時センター出発

午前中 9:30~12:00 幼稚部参観

幼稚部長 高橋 靖先生
主 任 高井 芳先生 両先生に挨拶

8才・4才・5才児参観

今日は雨だったので外での遊びを見学出来ず残念でした。

明日は8才・4才児は1泊2日の合宿に出発の為

出発からバスの乗り方、キャンプでの歌、花火遊び

就寝までの行動、玉川学園までの到着

これらのすべての説明を先生が汗を流しながら身体で表現し子供を楽しませている態度は感嘆
きわまる。園児の歌や一つ一つの行動に感動の涙をさそう。

「幼児の教育は馬鹿になれ」断然気に入りました。

第三時限 小学校の舞踊 玉川先生 リトミック

音に慣れるための音の強弱を身体で
大・小、硬い柔らかいを身体で
物語を身体で } 表現する

我々日常生活の中からたくさん気がつかなかったことを教え込まれました。

第四時限 児童音楽 朝日先生 音楽研究室

新しい歌、楽しい歌、なつかしい歌、手や頭を使ってたくさん歌を歌い続けた。

矢内 記

7月3日 金曜日 雨

今日は、関東地方は勿論広範囲に亘るごう雨注意報を耳にして、何か不安を感じながら足の運びも重く学園に向い全員出発する。幸にして思った程の雨量でもなく、ほっとした。しかし今日の雨は一日中降り続けた。

基本体操を教授下さる中山先生のお招ねきで、昼食後全員が先生の所に行かせて頂き、先生のお心づくしのブラジルの香りもたかきブラジル産の美味しきコーヒーを頂く。

室内の書籍棚には何んと驚くばかりの何百冊の書物が並んでいたのには感心せざるを得ない。まもなく午後の授業の時間となる。

本日の授業科目

午前中岡田先生 全人教育と題して

児童の発達、子供の交通安全にと神奈川県交通度のひんばんな小学校の実態を映画化されている。此の映画を観賞しながら先生の講義を受ける。他にもう一本のアメリカ映画を見せて頂く。

一年生の教室での授業態度、如何にも遊び半分のような感じがするのに対し六年生の教室、授業態度は真けんなる空気が室内にみなぎり、一人々生徒自体の表情も真けんそのものであり全く一年～六年生とでは対照的と思われた。

○物事に熱中する持続時間が低年児と高年児とでは差が大きい。

8才で80分持続できる者	7%	} 高学年の方が熱中持続時間が長い。
4才	// 87%	
5才	// 48%	

午後8時限～4時限 石井先生 体育レクリエーション指導

リーダーの任務は折目切り目のある時には強く場合によりうんと優しくし、教師生徒親三身一体となることが最も大切である。

○古新聞など利用しちょっとの工夫で変化のある帽子作り、紙テープを作ったの手品、楽しき心で歌の練習動作をしながら楽しき時間であった。時代がいかに変転しようたくましく洋々と生きて行く人達を作るのが教育者であると力説された。

西山 記

7月4日 土曜日 曇時々晴

午前10時、事業団本部より西山職員センターに来られ打合わせ。昨夜急に連絡があったので親類に訪問出かけた矢内、佐々本先生欠席。

西山職員は今後の行事について、不明であった部分の説明、8月末よりの関西旅行後の郷土研修の計画書提出の説明、その後質疑応答の時、約半数の先生が研修終了後約一週間より10日位の自主研修希望、熱弁で西山職員にお願いしたが、むずかしい様子、今後この点も研究してほしい。

午後は、明日の日曜日を利用して各々親類訪問。

留守番、西山、酒井、大西、樹木先生。

7月5日 日曜日 晴

入梅も今年は、7月12日頃まで続くそうで非常に気分的にうっとうしい。今日の様に晴れると非常に暑い。

今日は全先生横浜あたりに買物したり、親類訪問（昨日より）、洗濯したりで、一日を過ごす。

日本に来て、テレビで野球を見れるし、今日より名古屋場所の大相撲も観戦できる。

ただ、毎日授業の複習、洗濯におわれゆっくりする暇なし。

木内 記

7月6日 月曜日 曇

最初、通学に全員団体行動をしていたが、全員を出発時から三本の電車を利用し、その乗車、下車の度毎に、確認するのは20数年ぶりに帰国した私にとって、自分のことだけでもふうふうなのに、ひどい負担だった。しかし、先週もう分散しても大丈夫だ、とのことで肩の荷が一つ下りた。特に、私はブラジルでの生活では、食後すぐ歩くことはなかったもので、いつも腹痛となり、途中トイレにとびこんだり、悩みの種だった。それで、今日は朝食後他の先生方よりも5～10分下のサロンで多く休んで出発したが、玉川到着は皆より、25分早く、オヤオヤと思った。

授業は、

第一時限 海外日本語教育

第二 “ 小学校の舞踊

第三 “ 児童音楽

当学園の教育方針の全人教育が基盤となった、全ての授業は、私自身も個人的に「多分、……だろう」と思って来たものが、学問的に裏打ちされ、うれしくなったり、「おや、そういうこと、こんなことも取り入れたらもっと楽しくなるな」と思わされたりの日々である。

私達の様に、遅れており、バラバラな教師達に教えるのは大変なことと申しわけない気もするが、本当に真剣に教えて下さり、快適な生活を送るべく配慮していただき、云うべき言葉もない。

夜は私の部屋に、全員集合、正善先生よりの小、中学校の授業参観及び鎌倉方面への小旅行についての伝達事項、その他についての相談をし、又、私達内部での諸役員、責任分担を決めた。これで、又肩の荷が一つ下りた。

明日は6時出発のため早く就寝しようと思ったが、何やかやしているうちに遅くなってしまった。

個人的なことだが、20数年ぶりに帰国し、その間一度も電話で話したことがなく、数年間は音信不通であったのが来たものだから、秋田、北海道を始め諸方面から電話があり、早く会いたいと

いって来ているが、特に兄や妹は毎晩長時間の電話、何千円かかっているだろうと心配になっていたが、昨夜からは、切符を送るから少しでも顔を見せてくれと云って来た。行きたいのは私も同様だが。

酒井 記

7月7日 火曜日 晴 暑

1、2時限が、小学部参観となっているため、根岸駅を6時30分に出発する。文一2前の自動販売機のカップうどんを食べる。

学生は休暇に入って、補講とかの学生がまばらに通るだけである。

グラウンドに向かう。スクールバスなのだろうか。2台帰って行く。

グラウンドには数百人(実数900人)の児童が走り回ったり縄飛びなどして賑やか。先生方の姿も見える。

音楽が始まると、遊んでいた位置でラジオ体操。並ばないのである。

コの字に並んで朝礼が始まる。研修生の紹介があって、歓迎の歌、校歌(雨天でない限り、この朝礼があるとか)大きい声で、よく合って……。お客さんが来ているからという特別な態度は見られない。

女子は、さまざまな服装だが、男子は運動靴に紺紺の半ズボンに半袖のシャツを着けている。

見事な行進で(4列)それぞれの校舎(教室)に向かう。

応接室に通され、改めて部長先生の歓迎のことばの後、参観させてもらう。参観の後、応接室で昼食をご馳走になる。

12時45分より学校要覧の概要の説明がある。

一般の学校と異なると思われる点(公立の学校を見ていないので正しい比較とは言えない)

1. 礼拝の時間がある。至る所に人生(処世)訓が書かれている。
2. 小学校で英語がある。(ごく初歩的にしても)
3. 一年生には時間割がなく、子供の状態に合わせて(判断して)担任が決める。
4. 職員室がなく、授業の始め終わりの鐘などの合図がない。従って用務員(小使いさん)がいなく、当番(6年生-自学)がいる。
5. 校舎が続きの棟でなく、学年別の別棟である。
6. 四、五、六年生は教科担任制で、教科教室制となっていて、児童の方が移動する。
7. 大都会では望めない農園(自然)がある恵まれた環境。
8. 三年生以下は、毎日家庭通信をする。授業参観が自由である。

9. 中流以上の家庭の子弟を集め、私立であるため、学校の方針通りの教育が可能。
10. 非常にのびやかで明るい。わざとらしさが感じられない。
11. 入学試験がある。(私立だから当然だが。)

8時限

児童音楽 朝日先生 文-2-508

愛吟集より

“もみじ” 外16曲 動作なし。

樹木 記

7月8日 水曜日 曇

本日は午前中講義なし、但し石塚さんに引率されて我孫子協和銀行支店へ行き、キャッシュカードの使用法を習得 12:00 頃全員玉大に到着。先ず昼食

◎ 13:00 ~ 14:30 全人教育(岡田先生)

日本に於いて美術教育として子供に絵をかかせるのはいつから始まったか。それは明治5年学校教育が始まった最初からである。しかしその時点ではお手本を示され、それをそっくりそのまま書くことに集約された。その理由は日本を早く西洋文明を吸収させる為、その外観のみを真似した。テープレコーダー、カメラも無く、物を早く正確に写し取ることが大切だったと思う。しかし絵をかかせることは子供の心を育てることであり、絵の中に子供の心があらわれてくる。教師はそれをよく見極めることである。

12:30 より、昭和29年に作られた羽仁進監督による「絵を書く子供」が上映された。

14:10 より岡田先生の話、さびしい心の子供は紫の色を使う。しかし、何色を使ったからどういう性質であるときめつけるのは危険である。実際さっきの映画にあるよう紫色を使って絵をかき、心のもやもやを吹きとばし次にかくときにはさわやかな表現が出来るということがいちばん楽ないき方で、同じ表現でも音楽もあるが、音楽には技術の教育の必要あり、十分に子供たちに自己表現の教育にはならない。

◎ 14:40 児童心理学(日名子先生)

1. 今までの復習として

ポルトマン(スイス)の人と動物の差とは何か。それは(ゲン種) gene であり、次に性、第8にことばによる文化である。

ことばの学習には、物を視ることから始まり乳幼児は pai pai から始まる。たとえば人間は世界どこにいても住める。我々移民はあまり感じないがこれは大変なことである。

次にことばによる文化である。ことばは音にすぎないが、それにより生活様式その他を支えているのであるから現地日本語教師は、日本語を教えるまえに日本人ということ教えるべきだと思う。即ち、日本語にしか無い心情の言葉を教える。それには何十年ぶりで来日し、日本の変化をよく見て生徒に教えてやるのが良い意味の日本語教育である。

2. ことばの学習

幼児のことば pui pui は母親のまねをすることから始まる。母親と自分のことばの比較からだんだん口が上手になり pui pui の表現が出来るようになる。この前説明した五感もものを受け止める器官である。これを与えていけば、ことばは発達する。

4才児に「おかあさんてなかに」と聞けばなんと答えるか、正解は食べ物を作る人というイメージである。母とは何か、子供を産み育てる人である。只産むだけなら母ではない。現在の日本の母ということばには考えさせられるところが多い。

これに続いて「概念」ということばが出てくる。母の概念は御飯を作る人で、日常生活に必要な概念とは「価値感」である。それに会話の必要と社会性である。

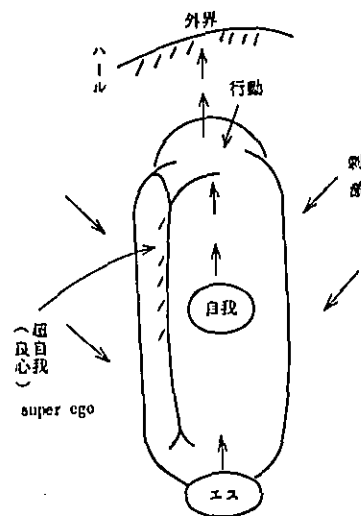
以上で今日までの復習的な講義が終り。

3. フロイト (Freud) の精神物理学

今日人間の心という漠然としたことを勉強するのが心理学であり、所謂児童心理学は、児童の心がどう発達していくかについて Freud (オーストリー、ウィーンの人、医者) の精神物理学がある。必ずしもその通りではないが、フロイトがどう考えたかを知ると児童心理学を説明するのに都合がよい。

先ず右の図は、眠球をタテにしたものらしい「心」である。

赤ちゃんは生まれたとき図の様に世界(機関)があり、これをエスと名づける。ここからエネルギーが出る。このエネルギーにフロイトは、libido (生命) という名をつけた。このエネルギーは、快を求め又、不快をさける。このエネルギーが出ると行動になる。大人からいろいろな刺激があたえられ、1才位になるとエスが分化にあるものを作る。これが心の中心になる。これを ego (自我) とよぶ。眠などによって自我が異ってくる。そして自覚作用からたリビドーを通すか通さないかをチェックする。ここ



エスから出るエネルギー-libido (生命)

で認定されて通ると自我しか無い段階では、あとはチェックする段階がないから行動となる。

しかし、小学生になると一種の壁が出来る。これを super ego (超自我) という。これは何かというとき昔の修身とか道徳とかいう(知的道徳教育)日本語では良心という。これも通ると外界に出る。しかし外界にも又障壁があり、これは社会の基準、即ちルールである。これを通ればよいが、通らなければ又もどってきて所謂ノイローゼとなる。又行動への道を親のきびしい躰などによりリビドーは通らず上から蓋をされ沈積されると時により爆発すると若者の非行につながる。

以上フロイトの学説は機械的ではあるが非常に理解し易い。教育と結びつけた場合何が大切かといえば幼児から小学校迄の育てかた、又周囲の大人の言動である。

以上で本日の講義の大略であるが中に盛りたくさんな我々身近に感ずる例をあげ、その話の方に考えさせられるところが多かった。

塚田 記

7月9日 木曜日 晴

今日は中学部授業参観のため、いつもより早く(6時30分)センターを出る。

8:30 中学校授業参観

1:00~2:30 小学校の舞踊 リトミック 玉川先生

朝8:30分 中学校校庭に集合

朝会で部長より生徒達へ私達研修生の紹介があった。

礼拝堂で学生と共に朝の礼拝を受ける。

事務所にもどり岩崎先生の引率のもとに各クラスの参観、しかし第二学末試験も準備のため私達が望んでいる授業を参観する事が出来なかった。

その後いくま先生を囲んでの懇談会。

私達の思い思いの質問に心良く答えてくださる。

“リトミック”

それぞれの音楽にテーマをつけ(例えば今日の場合UFO、スーパーマン、etc)その言葉を出き心の動き、又心の表現を話しあったり絵にする。

同じ事を玉川小学校の二年生がやったと言うその作品を見たが、とうてい我々の想像もつかないすばらしい考え、表現を描き出している事に非常に感心した。

今まで宿舎で6時に夕食となっていたが今日からそれを取りやめ全員外食とする。理由はそれぞれ時間にしばられず思い思いの行動を取るため(学習、買物、その他)。

さすが慣れたためか疲労が目に見え、始めの元気はどこへやら……全員一日も早く体調をとりもどされる事を望む。

笹本 記

7月10日 金曜日 晴

第二時限 日本語を考える 片山教授 文Ⅱ 401

日本語は 表語文字 } から出来ているという説明
表音文字 }

第三時限 現地授業研究 正善教授 文Ⅱ 401

①小学校学習指導要領

国語第2学年について説明

②金平正先生紹介される

第一回研修生を世話された方 20分懇談会

③酒井政廣先生の現地授業方法発表

ブラジルパラナ州めぐみ学園の先生

矢内 記

7月11日 土曜日 晴

小旅行、鎌倉方面、引率昌谷先生、正善先生の奥様

午前九時に根岸駅に全員集合

九時十二分発の電車にて鎌倉に向かう。

北鎌倉駅で昌谷先生、正善先生の奥様と全員合流し、鎌倉めぐりに出発。

1. 円覚寺

参拝のあと、見晴らし台に登り「ところ天」を御馳走になった。お店の人の話では、ついさっきまで富士山が見えていたとの事。とても残念だった。

2. 長寿寺

小じんまりとした休憩所があって皆で楽しく精進料理の昼食を御馳走になった。正善先生の奥様と通大祭の洋服作りの事など話し合った。午後1時長寿寺を後にした。

8. 鶴岡八幡宮

宝物殿見学

4. 由比ヶ浜

久し振りの潮の香に気分爽快。

懐しいかき氷に舌つづみをうった。

5. 鎌倉大仏殿

大仏殿拝観後15時40分長谷駅に向かう。由比ヶ浜駅にて昌谷先生と別れ、大船駅では正善先生のお奥様とお別れした。

17時45分全員根岸駅に到着。夕食は自由。

正善先生の奥様は、大陸的な方で初対面から大らかな笑い声から始まり、笑い声で終るといふ方でとてもよい印象を受けた。今度私達をお招き下さっているなのでその日が待遠しい。

今日の暑い一日、私達につき合っ下さった昌谷先生、正善先生の奥様に感謝して筆をおく。

藤沢駅に身障者用の洗面所があったのにおどろいた。

大西 記

7月12日 日曜日 晴

昨日の鎌倉旅行の疲れもどこへやら、今日も殆んどの方が親戚、知人、友人等と出かけた。

杉木先生は残られた様子

20時迄には全員センターに帰った。

大西 記

7月18日 月曜日 晴

9時より小学生の“リトミックのたいこ”ダンスの指導があった。団長代表して見学、第1時限が始まる前に指導法又経過等説明していただく。

10時40分より 上原先生の日本語教育

古事記 本居宣長について

- 忘れていた日本人の生き方を思い起こさせる。
- 日本人の感覚を身につけるには古事記の外にはない。
- 日本語の性質もよく表わしている。

だから、是非古事記の本を土産として持って帰ることをすすめられる。

- 我々は言葉だけを教えるということは音に対して感覚指導する事であると又、擬態語、複合語等について教わる。とても興味深い講義であったが今日が最後で完全に理解するには時間が少

々少な過ぎる。後はスクーリングにかけよう。

今日は又最後の講義となり、最後をしめくくって矢内先生が質問したのが悪かった……男性軍の目は宝石のように輝き、女性軍ショボン……。

第2時限 玉川先生 リトミック

今日はとにかく蒸し暑い一日で、リトミックを考えただけで全員ながーい顔、しかしいざ始まると……

紙の皿、紙コップ、紐を使い何かを作り上げる。みんなで一緒に洗濯機、クリスマスの物語、インディアン（西部劇）体で表現する。いつも乍ら我々のはたいした事はないが、子供のアイデアは本当にすばらしい。

リトミックも今日で最後、中には喜ばれる方あり…？けしからん

第3時限 古谷先生 大きな器具の運動遊び

大人の感覚（我々）として

マット………転がるもの

飛び箱………飛ぶもの というイメージを変える為に、時には音楽を入れてリズムカルに楽しく教わる。

大切な事………○年代に応じて出来る運動を体で覚える。

○その人その人に合った運動

○やらされるというイメージを持たさない。

なる程と思った。とかく我々はハードトレーニング、せっから勝負に結びつけるという悪いかたまりの考えを持っていたが深く反省させられる。

とにかく今日汗ダクダクだった。最後、古谷先生の御好意で冷たいジュースを頂きとてもうれしかった（心遣いに）

又今日から移住センターにボリビア、ブラジルに移住される方々や東南アジア方面の方々が入れられ宿舎も大変にぎやかになった。夜は蒸し暑いし、やかましいし、睡眠不足になる恐れあり…？

森川 記

7月14日 火曜日 晴

今日はひさしぶりの休み

買物へ行く人

親戚へ行く人

友達の家へ行く人

勉強する人

休む人

それぞれ思い思いに休日を暮らす。

森川 記

7月15日 水曜日 晴

いよいよ本格的な日本の夏となった。昨夜はむし暑さで眠れず、一同そろって今日は朝から眠たそう。センター内は一挙に七十数名の大世帯となって雑音の絶え間なし。

今日は一、二時間共正善先生の現地授業研究

10:40分～12:00

◎小学校学習指導要領から（第2学年）表現について。

表現力をつけるため、日記や作文を書かせる。日記については先生ご自身が昔、指導された方法を教わる。

○作文といっても色々な種類がある事

〔感想文、事件、詩、俳句、読書感想、手紙、記録等〕

一学年では、文章を書くだけだったのが、二学年では自分の書いたものを自分自身で、間違い等を正そうとする習慣をつけさせる、自学自習という形にする必要がある。これは、我々の学校の様な複式授業に役立つだろう。

第2時間目 13:00～14:30分

◎文字に関する指導

先生がコピーして下さった資料をもとに、ひらがな、カタカナ、漢字のかき方、とめ、はね、はらい等の正誤基準を知る。

毛筆を使うことによって、文字の組立て、点画、長短、始筆、終筆をおぼえさせるとよい。酒井先生がマジックペンを毛筆の代用として、習字に使用なさっている由、実演される。出来ることなら、現地で毛筆を使って習字をさせてみたいと思う。

※授業後、正善先生よりスクーリング・オリエンテーション後の先生宅に集まる件についてのお話あり。その後、幼稚園によって、現地に持って帰りたい教材の見本を、園長先生より見せて頂く。ジャンボカルタ、漢字カード等、大変素晴らしい教材ばかりで欲しいものばかりだが、重量のかかりそうなものが多く、目下一同思案中。学園内は、夏休みに入ったせいか行き交う生徒もまばらで、校内もガランとして静か。あじさいが散り、そろそろ、きょう竹桃の花が咲き始めている。

7月16日 木曜日 曇後晴

1時限(榎木遅刻 — 成城学園駅まで行く)

日本語を考える 片山先生 文-2-401

漢字

象形 日・月・川・魚……
指示 一 二 ……
合意 日と月 — 明 人と音 — 信 ……
形声 江 河
 意符 音符
転注 楽 — 楽しむ
仮借 英吉利 亜米利加……
音(おん) 呉音・漢音・唐音
訓(くん) 日本語を漢字の意味(表意)に当てはめた。

2時限(榎木……見学)

小さな器具の運動あそび 永井先生 高等部体育館

(1) 布(赤・青) 約0.6m×0.6m 小1~5年向き

(2) ボール 径約15cm・5cm

布でのあそび

(1) 丸めて、高く投げ上げて受取る — 子供にはむずかしい。

同じく顔(頭・足先……)で受ける。

(2) 鬼にかぶせて、多勢で歌いながら周囲を回り、止まって名を当てる。

ボール・布

(1) ボールを転がして、2人で持って布の中に入れる。(投げて —)

(2) 2人で広げた中に入っているボールを、2人で広げた布に受ける。

(3) ……

できるものからやっていく。

7月17日 金曜日 晴

連絡事項 於、国際協力事業団本部会議室（三井ビル45階）

1. 7月30日（木）の、中間報告会を、8月10日（月）に延期。
午後8時6分～5時20分 — 中間報告会。～7時30分まで懇談会。主に前年の反省や気付いたこと。その後の願いなど。
2. 奈良にて解散後、出身地までのルート（各人提出済）
3. 研修ルート — 8月10日に提出のこと。（別紙）
4. 出身学校宛ての紹介状は後日に渡す。
5. 研修終了後、身辺整理期間として、数日間の滞在を認める。9月末まで、旅行者障害保険がかけてある。
6. バリグ — 9月28日（金）が最終便。
9月17日に研修は終わり、18、21、25、28日の4便がある。出発希望日を、8月10日に聞きたい。
7. 伊豆研修報告は、1名でよい。研修日程と内容程度。

西山 記

日語指導教師派遣の件

1. 予算の関係で減員（予算不足）。
2. 現地研修をして効率よくやる。
3. 教師が、1か所にいて指導するのではなく、全校を回る。
4. いかにしたら教師が働けるか、意見を聞きたい。帰国までにまとめて、次からの参考資料としたい。従って、帰国までに2・3回の会合を持ちたい。
5. 予算は増加することは考えられない。インフレの分だけ値減する。

部長 記

終了後、18・19日と連休なので、外泊する先生方が多く、ここで解散する。

子供連れに移住者が出発して、急にセンターも静かになった。蒸し暑い一日であった。

7月18日 土曜日 晴

今日も暑い。残留は西山先生と私だけ。

7月19日 日曜日 晴夕一時小雨

外泊で静かな朝で遅く目覚める。

西山先生に連れられて(用件があって)浅草、松戸市まで行く。

門限までに、みんな戻られて賑やか。

遅くから、佐々木先生の誕生日をお祝いする。と言っても、実は私はアルコールが過ぎて、下手な歌を歌った位でー。

先生の誕生日を心から祝福します。

7月20日 月曜日 晴

スクーリング・オリエンテーション 通信教育部事務局

事務長 松浦先生 10時20分～

1. 通大生……昭和25年に、小原先生が教育の機会を広くする目的で始められた。初めは、自身を高めるためであった。

通信教育で免許(小学校)の取れる……東京に3か所ある。

2. 本年は、4,341名が参加する。(18～65才)

3. 日程

スクーリング手帳のP.10・11

テストは受けない。終了証書が渡される。

礼拝には出る。

4. 8月25日(火)閉講式。

女子の先生方は、正番先生宅へ。

海老名駅で、みんなうどん、そばなど食べる。立ち食いなので落ち着かない。木内先生は、体に合わせて二人分をたいたげる。

用事があって、私だけ横浜で別れたのはいいが、帰りの時間は、ラッシュ時で横浜ではなんとか乗れたが、次の駅で下りる人に外に押し出されて、そのまま乗れない。その後、二電車を見送ったが無理に乗る凄さに驚いてしまった。

16日(木)～20日(月) 榎木 記

7月21日 火曜日 晴

第1期の研修が終わり、第2期スクーリング・オリエンテーションも昨日すまし、今日は休日で

ある。

午後 18:00 男の先生方を案内して正善先生宅に向う 15:00 より 19:00迄先生宅で御馳走になりセンターに帰る。

7月22日 水曜日 午前晴暑し午後夕立

玉大通信大学の入学式、開講式に参列する。沖縄から北海道まで4,500人の学生群に驚いた。事務長松浦先生の司会による式次第を記す。

玉川大学通信教育課程 昭和56年度 夏期スクーリング

入学式開講式次第 昭和56年7月22日午前10時 於体育館

奏 楽	バッハ作曲ト長調プレリュードとフーガ
国 歌	全員起立
学長訓辞	
「いざや学ばん」	
学生宣誓	在学生代表
「学生歌」	在学生起立
歓迎のことば	小学部生徒
リード：イントロダクションとカプリイス	吹奏学団
新入生歓迎の辞	在学生代表
「コラール」	オルガン
表 彰	
「Cantate Domino」	吹奏学団
教授紹介	
「校歌」	全員起立
奏 楽	ブラーム作曲 大学祝典序曲

以 上

式のあと事務局、学生会本部より諸連絡あり。

塚田 記

7月22日 水曜日 午前中晴午後曇り雷雨

今日は通大生の入学式開講式で午前10時10分より大体育館に於て、都々浦々より集いし、約

4千名以上の生徒にて階上も階下もぎっしりであった。どの方々の顔を見てもあまり蒸し暑いので汗がにじみでている。生徒一人々の表情は全く真けんな面もちである。

閉会前に校歌、いざや学ばん学生の歌等の練習があり、全員指揮者に合せ声高らかに練習を受ける。愈々閉会となる。

久々ぶりに懐しき日本の国歌を全員起立にて斉唱する。少々テンポが早いようであったが感激いっぱいであった。次に学園長の情熱のあふるる訓辞があり、その一言々がひしひしと胸に迫る思いで拝聴する。

全員園長さんの激励の言葉に感激しているようである。

次在学生代表の力のかもった学生宣誓があり一同拍手「次いざや学ばん」を合唱する。特に胸をうたれたのは小学部代表生徒の歓迎のことばであった。

男女二名の生徒のことばとその一言々が感あふるる言葉で、自ずと目頭があつくならざるを得ない全員感激いっぱいであったと思う。

在学生代表の歓迎の辞、功労者に対しての感謝状の授与。

各科目別担当教授の紹介あり、続いて（吹奏楽団）最後に全員にて声高らかに校歌を歌って閉会、その後において事務局学生本部より夏期スクーリングについての諸事に亘り説明ありて解散する。

汗だくだくにて宿舎に到着して見れば日語研修生の部屋に一台大型扇風機が石塚職員のお配慮にて設置されており、一同おお喜び、感謝しながら先ずスイッチを入れる。快適に良く廻る。大助かり、尚本日石塚さんより今後の外泊につき外泊許可願の提出についての具体的な説明があった。原則として外泊希望者は外泊2日前に許可願の書提出される様とのことである。

西山 記

7月28日 木曜日 晴時々曇

昨夕雷雨あり、あちこちの信号機の故障で防日後初のラッシュ、根岸でのりきれない先生あり、電車も5分～10分遅れ、しかし全員無事。始業30分前玉川学園に到着。

さあ今日より第二期研修、通信大学生と一緒に受講。

私達は第二時限よりいつも参加。

二時限 教育学演習 岡田先生 10:20～11:40 スタジオ(美演劇)

三時限 現地授業研究 正善先生 12:40～14:00 文II 401

四時限 音楽教材研究 朝日先生 14:20～15:40 礼拝堂

「教育学演習」

本日は玉川学園の生徒による演劇観賞

リーダーを始め赤、緑、黄、青、だいだい、紫のジュウタンに小学1・8年生80名ずつ位すわらせ「世界の始め」という創世紀の演劇を6名のリーダーが小学生に時々参加させながら演じた。

想像の山を作ったり、神が地球を作ってから太陽の必要性などを演じ、ひじょうにすばらしいものであった。

舞台が低く観客席の方が高く観覧しやすかった。

「現地授業研究」

二時眼目が遅く終わったので、午後一時より始まる。小学三年生の学習指導要領の国語の表現の説明と中南米の先生方に作文コンクールの状況説明をしていただく。

「音楽教材研究」

音楽とは感覚の世界である事の説明を10分程説明後、まず最初に「午後の挨拶は、元気にどうぞ、こんにちは」という歌を始め「山賊の歌」「森のキツキさん」「街は大きくなりすぎた」「夏の思い出」「ゆうやけこやけで赤い雲」等の歌を教えていただく。

非常におもしろく、楽しく音楽授業をした。

授業終了後、団長さんと私は招待され、玉川学園出版部の田口迪太郎氏とブラジルのサンパウロ・パラナ的生活、教育事情等の点について話し合った。

木内 記

7月24日 金曜日 晴

10時20分より岡田先生 教育学演習

私達も通大生とだいぶ顔見知りとなり、和気合々のうち楽しく二時限を終える。

12時40分より正善先生 現地授業研究

今日は私達に無しよう配布の書籍の選考を各自行う。あまりにも部数が多すぎ選ぶのに大変である。各自10冊以上注文お願いされたと思う。

次に本題に入り先生より、各学校の授業科目につき質問される。絵とか習字とか作文とか各先生方全員が発表された。

14時20分より朝日先生音楽教材礼拝堂にて

全員はりきって大きく口を開き元気よくうたう全く楽しき時間である。本当に指導先生がユーモア的ではがらかな先生である。

午後7時頃よりセンター食堂にて、中島所長、石塚職員列席のもと横浜商科大学高等学校海外事情研究部員5名、教諭山内千明先生と約1時間程度の海外日語教師との座談会（現地各地の各先生方の説明事情発表）を行い意気ある思い出になる会合であった。

(本日塚田先生作の詩の朗読発表ありすばらしき作品である)
正善先生より自由詩、俳句など考えてはどうかと希望されました。

西山 記

7月25日 土曜日 晴時々曇

10'20"より岡田先生の教育学演習、最初の部分の全身をリラックスさせる練習は良い。帰国したら、生徒には勿論、家族や父兄にも伝えたいと思う。唯とんだり、はねたりは若い通大生といっしょに行くと、少しやるだけで汗がドーンと出て後にこたえる。もっと常に運動すべきを痛感させられる。

12'40"の正善先生の授業は、学習指導要領により“音読”の強調、全く同感、次にN.H.Kのアクセントの訓練の本の中より必要な部分をゼロックスに取って配って下さり、共に読みつつ勉強したがよほど注意しないとまちがい易い。日本でも、東西で反対のが多くあるのだから、現地の児童には本を読んでやったり、紙芝居の時等々、正しい発音、アクセントで行うことにより、自然に身につけるように努力したいと思う。

14'20"よりの朝日先生の“音楽教研”の授業

人をひきつける話術、明るさ、ユーモア、教師の重要な資質が彼に示される。音楽のときのみでなく、日本語、図画、作文、等々の授業の時にも(今まで努力はしてきたが)いつも、朝日先生の授業態度を思い出しながら、又石井先生始め諸先生のことを常々念頭におきながら“明るい教室作り”をして行きたい。

我々の中に、暑さ、疲労もあって通学途次、車中で眠りこんで乗りこしたり、早く下車してしまったり悲喜劇がよく起こる。それを話し合っては爆笑している。だんだん仲間意識が育って来、楽しいふんい気になって、感謝である。

酒井 記

7月26日 日曜日 晴

多くの人が親類、知人、友人の所に出かけた。20数年ぶりの訪日、このあとも来れるかどうかわからない、と思うと「あそこにも」「ここにも」と思うが、よほど考えてしないと寝れる。セーヴしながら、時間を有効に用うべく注意したいもの。

酒井 記

7月26日 日曜日 晴

朝から全員外出、それぞれの目的地へ。
門限までに全員センターに帰る。

7月27日 月曜日 晴

第二時限 教育学演習 岡田先生

リトミック教室にて

今日学んだ事

- 何もしない自由より何でも出来る自由の大切さ。
- 前向きの姿勢、やる気をおこす力を教師が与えてやる。
- 自分自身を作ることを教育という。
- 柔軟に何でも吸収出来る心を育てる。
- 周りの目を受け入れて自分をさらけ出せるようになる事。
- 感覚とは気付くことの成長である。
- 自分自身を育てる。根をしっかりと張っている人間にする事。
- 成る事によって学ぶ生き方の練習。

Imaginacion

感性は個人差の大きいと同時に共有できる。しかし、それぞれの感じ方想像の仕方は少しずつ違っている。

第四時限 音楽教材 朝日先生

礼拝堂にて

音ちについて

オンチだということを気付かせない

- ① 音程正しく歌わねばならないと思わせない。
- ② しっかり大きな声で歌いなさいという事が一番。
- ③ 相手の音程にこちらが合わせてやる事。

- 〈バラはあこがれ〉 • 〈たんぼぼ〉

歌のいのちとふれあうなにかのきっかけ。

歌との出会いが大切。

音楽との出会い。先生との出会いを大切に。

朝日先生ご自身の音楽との出会いについて話される。

先生にはめられた事。

友人の音楽に対する努力と熱意にうたれたことなど。

※その他、ゲーム、手を使ったり指を使ったりのゲーム「十五夜さんのモチつき」「トマト、トマト」など。

笹本 記

7月28日 火曜日 晴

一時限 教育学演習 岡田先生(夫人)

今日は岡田先生が急なご用でお留守の為、先生の奥様(この方は小さい時から舞踊をされていてリトミックの専門家)から教えるを受ける。

小柄な方が中々きびしそう。岡田先生の時より動きも激しくて、暑さのせいもあっただろうが今日は皆大汗かいた様子。

◎緊張感と脱力感

○体の部分部分を知るために、手、足、首、胴というように順々に部分を緊張させていき、今度は又順々に脱力していく。(体がぎこちなく中々むずかしい)。

○ゆでる前のマカロニ、ゆでたあとのマカロニ、冷凍室から出したばかりのバター、フライパンの上でとけていくバター等、体で表現しながら、筋張りと脱力を教える。

◎音に合わせて体のリズムをとる

○ロック調の音楽にのって、音が変わる度に歩く、小さきみに歩く。走る。只、手を打って単調に歩かせたりするのでなく、色んな表現をしながら(新聞配達人になったり、ドロボーになったり)自然に音に合わせていくリズム感をつけさせる。

二時限 音楽教研 朝日先生 礼拝堂

◎音楽の評価について ○音楽は他の学科と違って、総体評価でなく、個人個人の差を認めてやり評価する事によって子供の音楽に対する興味を高めてやる。

◎音楽を好きになるように ○どういう歌がよいか示してやること。歌とは表現がなければならない。音にこだわらず、おかしくとも表現しようとしている事を評価する。

◎指揮法について ○叩き、しゃくい、平均運動等がある。姿勢正しく手は目の高さ。

歌 小さい花、さよなら みなさま、学生歌を一人一人が指揮してみる。ユーモアと明るさでこの先生の授業は、時間の経つのが早い。楽しい授業。

佐々木 記

7月29日 水曜日 晴

10:20~11:40 岡田先生(夫人)

ほとんどが玉川先生のリトミックでやったことばかりであった。一応報告すると

1. 走りながら自分の位置を決める。
2. 仰向けになって目を閉じ音を聞きわせる。

音(黒板に字を書く音、戸を閉める音、鐘をかける音、窓を開けたり閉める音……だったのだが)

実際には人それぞれ考えて(聞いて想像している)いる音は別であった。

3. 脱力 2人1組になり、お互いに力をぬいているかたしかめる。
4. 汽車の遊び 1人から5人へ
5. 風鈴……ふくらむ、縮む、破れる、風にふかれて飛ぶ

先生は、我々に今自分が行きたい所……と聞かれ、それぞれ答えそれをもとに一つの物語を作り話される。全員仰向けになり聞き入る。そして話される事をもとに想像するのだが、まさしくその気になれるから不思議である。

6. ゴムを使って
7. ピアノ、岩、その他→押す真似それにより重さ、大きさ等を感じとる。
8. ステップの練習 ロックの音楽のリズムに合わせ……

いつもながら驚くのは先生の体の動き、線が非常にきれいで、全々お年が感じられない事である。我々も何とかそのようになりたいが、夢のようなものである。しかしこのリトミックを現地でどのように指導したら良いだろうか。今の今まで解答が出ない……。

2:20~3:40 音楽教材 朝日先生

今まではとにかく楽しくゆかいに勉強させて頂いた。今日はとてもひきしまった授業であった。

日本の音楽、音階について教わる。

雅楽の音階 → 律旋法 呂旋法

俗 楽 → 陽旋法(田舎節) 陰旋法(都節) 琉球旋法(沖縄)等詳しく教わる。そして

日本のわらべ歌を数多く習った。

もう一つ我々にとっての難問は、レポート提出だ。"もしもコックさんだったら"という歌を5年生の授業で2時間で仕上げるのだが、本時は2時間目(不完全)その学習指導法のレポートを提出、しかし、我々は曲もわからず小学校5年生がどの程度まで勉強しているのか見当つかず、仲間の誰か訴えた。中南米の先生方は出しても出さなくてもどちらでも良いが、出した方が良いと言われた……。さてどちらにするか考えもの。

曲は次の授業で教えて下さる事になったが……。

今日は又、イギリスのチャールズ皇太子の御成婚の日であった。ひとめ見ようとセンターの応接室、女性軍でいっぱい？

森川 記

7月30日 木曜日 雨後曇

ひさしぶりの休み、しかし大風のせいか度々大雨に出会う。8月6日伊豆長岡へ行くのだが、さっそく切符を買いに横浜へ……しかし満員で直行の切符は手に入らず、仕方なく新幹線（新横浜から三島～長岡）を利用する事にした。帰りはうまく手に入ったが旅費のオーバーとなり、少々痛い目が見えそうで下さるだろう。

学校が夏休みであるのと盆が近付いてきたせいであろう。

森川 記

7月31日 金曜日 晴

第二時限 教育学演習 岡田教授夫人 スタジオ

アメリカ映画2本観賞

視界、感情、情操、想像を身体で表現するムーブメントの映画

映画観賞後実演

バスケットによるテンポとジャンプを揃える表現

模倣……相手の動きをしっかりと見て同じ動作をする。

第三時限 現地授業研究 正善教授 文II 401

H・R

① 明日の都市センターに於いて行なわれる学校劇特別研修について

② 8月6日伊豆長岡で行なわれる学校劇夏期大学の件について

授業 母音の発音

ガ行の鼻音化

第四時限 音楽教材 朝日教授 礼拝

音楽には（歌）生命がある。それを生かすことが大切である。

練習歌 夏はきた

キャンプの歌

遠き山に日は落ちて

指印のとりかた

今日は $\frac{6}{8}$ 拍子

$\frac{6}{8}$ 拍子の歌の練習 輝く夏の日

あした浜べ

緑の並木

最後にレポート提出の題である「もしもコックさんだったなら」を歌っていただきました。

矢内 記

8月1日 土曜日 晴

昭和56年度学校劇特別研修

日本都市センターホールにおいて午前10時30分より玉川大学演劇部により「ベッカコンコおに」の公演を観劇した。

原作 さねとうあきら 「ゆきこんこん物語」より

脚色 ふじたあさや

演出 石塚雄康

物語

鬼といえば誰しもすぐ恐いというイメージを持つが、この物語に出て来る鬼は全くお人好しで今にもなき出しそうならしの顔をしていることから「ベッカコンコおに」と呼ばれていた。

このベッカコンコおにと山の麓に住む盲目の美少女「ゆき」が、ある出会いで二人が愛し合い結婚する。幸福な結婚生活の中で盲目のゆきのたった一つの願いは、愛するベッカコンコおにの顔を見たいということであった。ゆきの目を開ける為には竜眼草という薬草を探るためである。竜眼草を探るために、ベッカコンコおには愛しいゆきのために命をかけて捜して歩いた。そして、やっとの思いで捜しあてた時、復讐に燃えていたゆきの父親の鉄砲に倒れる。

ベッカコンコおには瀕死の体でゆきのもとに降り着き、竜眼草の汁をゆきの目にかけてやり、やっとその目が開き、ゆきが最初に見たものはベッカコンコおにの最後の姿であった。そしてベッカコンコおにを殺した父親に再会したゆきは、愛する者を殺された怒りのために鬼に変身してしまった。

鬼が人か、人が鬼か、鬼は人の心の中に棲む……という謡に合わせて踊り狂うゆきの姿で終わった。広いホールだったが、生の声が力強く響き渡り、素人とは思えない演技に感嘆し、拍手喝采のうちに12時30分終了した。

午後は自由行動、(都市センターにて解散)

銀ブラをする人、親戚、知人を訪問した人等さまざまであった。

8月2日 日曜日 晴

長期間だと思っていた研修も早半分を過ぎようとしている。今日の日曜も殆んどの人が親戚、知人をたずねるため外出。門限には全員揃った。

大西 記

8月8日 月曜日 晴

2時限 10:20～11:40

教育学演習 岡田先生 美術演劇教室

1. 心身の柔軟体操
2. 感覚の集中

以上、現在までの繰り返し。

3. 信頼感

- (1) 2人1組

片方が直立して後方に倒れる。片方がそれを受け止める。

- (2) 10人位が1組、その中の1人が仰臥し、他の者が取り巻いて、仰臥している人に手で触れる。しばらくして、皆で高く差し上げる。(自閉症患者はそれに耐えられないとか 一信用できない) 暫時、その形で歩く。

昼食会 13時00分～14時00分 於 けやき食堂

学生会からの申し出。学生会会長及び役員(10名程度)

会費(昼食費)先方持ち。

厚意を深く感謝する。時間が少なく残念。

4時限 14:20～15:40

音楽教材 朝日先生 礼拝堂

“愛吟集”より

何曲探険? 里の秋の外34曲。

榎木 記

8月4日 火曜日 晴れ 曇り

第二時限 教育学演習 岡田先生

最初、映画「発見と経験」を見せていただいた。

英国、ヨークシャー州の学校で映写されたものであるが、movementlo と呼ばれているようである。

17世紀のチェコの教育学の理論家として最初の人であるトメニウスは聴覚は視覚と結合し、視たことは手と結合すると云ったが、子供にはこの様な複合的刺激が必要とのこと。同感である。

その中で、水中の生物となったつもりでの表現、とか音楽に合わせて、最初は個人で次に2人で次にグループで、動作し、音楽も入れていく、という過程が出て、舞踊劇の創作につながっていくのを興味深く見た。

玉川でもそうであるが、環境、時間、諸種の器具、器材に恵まれてこの様なすばらしい結果が現われたわけだが、我々の現在の状態に、これをどのように生かすかが大きな課題である。

後々、我々も実技を行った。

第三時限 現地授業研究 正善先生

今日はN.H.Kアナウンサー読本より“発声と発音”についてのパンフレット(14ページ)のものを各自に与えられ、正しい言葉を出すための呼吸法、振動、共鳴等、そして良い声とは、悪い声とは、等について知らされた。

いつもながら、現地で実際に役立つことを次々と教材を用意して下さり、親身になって、私達のことを考えながら教えていただき感謝である。

第四時限 音楽教研 朝日先生

“友達はいいな”“Viva la musica”、“蚊がとんできたぞ”“母君に勝る”等の歌唱があった。初めての混声四部合唱も練習した。

又、玉川では楽しく歌うことが主眼とされ、高等部でも楽譜は教えないが、讚美歌ぐらいは初見でも歌える由。又、楽器も同様とのこと。私の思っていたことが実験されていることをうれしく思った。いつも乍ら、はつらつとした授業、最高に気持ちが良い。

酒井 記

8月5日 水曜日 晴

第二時限目 教育学演習 岡田先生

音楽を聞いて

- ロック音楽を聞いて自由自在にからだを動かす。15分間踊ったあとは汗を流した。
- 大地にふんばって大木になり枝が出て花が咲き、しっかりと根を張って花が散り枝がわかれていく表現。
- 雲に乗り地上の人々を見下し自分の家をさがし、おかあさんと呼び続けた雲が走っている表現

次は絵を見て言葉をつなぎ合わせて物語をつくる。

ひとコマの絵を見ながら自分がその絵の中の人物になりきって会話をする。2人1組

今日で最後の岡田先生の授業

この演習を私達が現地でどのように応用していくか問題である。

岡田先生、スクーリング生徒と記念写真をとる。

第四時限目 音楽教材 朝日先生

朝日先生最後の授業は笛の練習

どのような楽器を使うにしても楽器を演奏するだけでなく「歌心」がなければならない。

笛の持ち方 } の後二曲笛を吹いた。
音の出し方 }

通大生は大変上手で私たちはおいつけませんでした。

笹本 記

8月7日 金曜日 晴 伊豆長岡にて

伊豆の宿の朝、8時近く宿の人に起こされ、一同あわてて飛び起き、朝食を大急ぎですませて、それぞれの分科会に行く。

我々(大西、佐々木、笹本)三人は、簡単に出来る人形劇のクラス、昨日作った子ブタの指人形を持って、今日は実演の指導を受ける。

円下先生の指導の楽しいこと。笑いに次ぐ笑い。しかしその笑いの中に、人形劇の表現のむずかしさ、演技と演出によって、いかに子供たちを引きつけ、心から楽しませるかを学ぶ。

昼食をそれぞれの分科会の部屋ですませ、すぐ引き続き午後の実習に入る。

2時より“昼の集い”が大宴会場であり、その場で、本年夏期大学のミス、ミスターが決定、それぞれに木の贈呈があり、地理賞というものに(最も遠いところから参加したものへ)北は青森、南は九州の人へ、そして我々中南米グループにも、本を贈られる。この後、即興劇講座があり、この会のクライマックスといわれる今夜のキャンプファイヤーの席で行われる即興劇の指導を受ける。

夕食後、6つのグループに分かれ劇の練習、「ああ結婚。」という題で各グループが同じ題のものをいかに演じ変化をつけるかが見もの。

夜7時、大宴会場で、キャンプファイヤーの代用品?ローソクのファイヤーに火がつけられ、いよいよ始まり……我等女性軍は、教会の式進行中のウェディングマーチを歌う。聖歌隊を演じ?ポルトガル語の替え歌(知らぬが仏で)を歌う。

男性軍は、酒井先生が神父に、木内先生の新郎、何と/西山先生が花ヨメになって大ハッスル。

どのグループも大熱演でアイデアも面白く、大盛況の内に終る。

日本の津々浦々から集まった二百数十名の人々と和やかなふんい気と又、この分科会での熱気の中に2日間が過ぎた。他の分科会に出席された方々も同じであろうと思うが、もう少しじっくりと(例えば人形劇等)時間をとって研修出来たらと思う。

日本で最も富士山が美しく見えるのが、この伊豆長岡とのことであるが、残念なことに“お富士さん”はまだ我々に一度も姿を見せてくれない。

佐々木 肥

8月6日 木曜日 晴

第29回学校劇夏期大学研修に参加 伊豆長岡

全員午前8時センター出発。新幹線こだま号にて伊豆へ。

10時15分伊豆長岡に到着。

駅よりマイクロバスにて旅館(いづみ荘)に向う。

小憩の後、それぞれの部屋に案内され、私達南米組の女性5名は同室に割当てられ、久しぶりのタタミの部屋に落着いた。

午後1時開会、挨拶、オリエンテーション、先生の紹介等

この学校劇夏期大学は、全国の幼、小、中学校の先生方、その他希望者が集まり、行われるもので今年は250名の参加があった。

これには1. 生活を創造する学校劇

2. 学校劇は劇作から

3. みんなで劇を作ろう

という8つのスローガンをかけ、みんなで参加し、みんなで創っていく。又、みんなで演出するという事がこの会の特徴であった。

2時～5時 分科会実習

それぞれの分野に分かれて参加

5時より 入浴 夕食

7時より (集い)北から南から

全員大広間に集まり、各部屋毎に自己紹介をした。

さすが、日本の先生方の即興劇的自己紹介のアイデアのすばらしさに感嘆した。私達南米組も負けずに頑張った。

9時終了。

以後は、相談コーナーの時間

各人が質問があった時は指定の場所に行って、それぞれの分野の先生に質問し勉強する時間である。

伊豆の温泉旅館での研修第一日目（初日）なので少し緊張したが、玉川大学での研修とは又違ったふんい気でハードではあったが、リラックスする事が出来無事初日を終了した。

大西 記

8月8日 土曜日 雨、曇

学校劇夏期大学今日が最終日

午前8時朝食

9時より 丹下先生よりお言葉

続いて 富田先生よりお言葉

講演「話しことばと演劇教育」 演出家 浅利慶太先生

特におもしろかったのは

話し言葉の中で

スペイン語は折りを表わすのにいいとか

英語 商売

フランス語 愛

ドイツ語 詩

ロシア語 呪い

日本語 人を敬う なる程と思った。

又、聞き取れない話は母音の“ア”が発音されていない。だから歌の練習の時は子音をはずして母音だけで練習するとかきれいに発音されるとか音楽の朝日先生も言っておられたけどどうなずける。

とにかく始まりから終りまでおもしろおかしくお話し下り、さすが演出家の浅利先生 全員満足顔

その後、事務局長より挨拶（森田先生）

そして全員スクラム組んで別れのシュプレヒコール、それぞれの指定された所を読む、途中副会長の挨拶もあった。

学校劇夏期大学のうたを歌って全部終り 別れを惜しみながら

さらば又来年まで……しかし我々は……再びチャンスが訪れるであろうか

汽車の切符が8時58分 それまで買物、散歩と時間をつぶす。

午後18時頃帰舎 ホッと一安心

やはり住めば何とか、ここへ帰ったらまるで我が家に帰ったみたい。皆さん御苦労様

森川 記

8月9日 日曜日 晴

思い思いに送った一日であるが、7名のみ午前8時50分宿舎出発。高田の馬場10時正善先生の奥様と合流 → 浅草(買物) → 秋葉原 → 国立劇場(歌舞伎 義経千本桜 実録先代萩 双蝶々曲輪日記)いつも乍ら正善先生御世話になりっぱなし、つい我々も甘えてしまう。申し訳ない限りである。おかげで楽しい一日であった。

森川 記

8月10日 月曜日 晴

玉川大学授業休み

中間報告のため事業団本部に出かける。

海外移住センター12時出発 — 本部到着2時

○午後2時より帰国手続き

○午後8時より中間報告会

出席者

玉川大学側 正善先生 昌谷先生

本部側の紹介

永田関東支部長 今雪移住事業部長

奥田国内事業課長 宮川海外事業課長

中谷参事 佐々木海外事業課課長代理

友永国内事業課 猿田 // 職員

西山 // 高嶋国内事業課 //

研修生10名の自己紹介と感想

○以上の出席者の間で種々の問題、今後の要望が討議された。

1. 海外における日本語教育とはどうあるべきか。
2. 日本語学校移住者子弟の教育の予算について

3. 日本の教材 }
教育方法 } が中南米社会の中ではたして生かされているだろうか。

事業団としては、移住者を対象とした日本語教育である。

日本語教育を充実するため教材の配布、教師の研修は奉仕である。

父兄は日本語に対して感心がどの程度か。

家庭と学校が一对になるべきものである。

4. 我々の研修は、現地での質をみがき高めていくのが目的である。

地域別に現地の実状を良く観察し、その程度にあった授業をする。

とにかく各国の教育レベル向上目的の為努力すべきである。

5. 研修の要望として

宿舎の問題 → 充分満足している

食事 // → センター内で食事したい

土・日のシャワーの問題 → 土・日もシャワーの許可がほしい

} 来年度は解決されるよう
願っている。

矢内 記

8月11日 火曜日 晴

今日より通大スクーリングの後半期が始まった。

2時限目 国語教材研究 上原先生 文I 309教室

10時20分 — 11時40分

今日は最初の授業なので上原先生の身の上話でほとんど2時限目は済んでしまう。

上原先生は、中南米へ昨年視察に行った人で学士であるが、学生時代広島県の師範に居り原爆にやられたが運よく生き残り、現在教壇に立たれている。

又学生時代の先生の事、先生とはいかにあるべきかと話した。

この時限は、国語教材研究にはならなかった。

3時限目 現地授業研究 正善先生 文II 401教室

外国語としての日本語教育は会話主体

ブラジル版のっぽんご会話のテキストの説明、早く授業を済ませ、今度の通大祭の踊りの練習を会場に行って行なった。

4時限目 児童心理学 水口先生 文II 309教室

水口先生は、私共には初めての授業、この時限は選択科目で男性軍は皆同じだが女性軍は別の科目を選んでいる。

水口先生も半分は世間話で半分授業。

児童心理学は知的機能の発達、知能の定義を学ぶ。

知的機能とは、言語的操作でなされている精神的な能力。

その子の能力は健常的な脳を持って生まれてきたか異なる。

おもしろく、解りやすい授業だったので楽しかった。

森川、佐々木、大西、笹本先生は体育レクリエーション、矢内先生は音楽と三科目に分かれて授業する。

木内 記

夜移住センターの屋上にて通大祭の前夜祭に行うスペイン系の踊りの練習を再度行う。

8月12日 水曜日 曇時々雨

2時限目 国語教研 上原教師 文I 309

本日の講義は文部省の初等教育資料について、10年ごとに改善されている学習指導要領について、現在版は改善の基本方針が既に混乱、荒廃している。われわれが受えるのは「表現」と、「理解」との二領域を国語科の内容と規程する事は、「何か」を表現し、「何か」を理解すると考えやすくなり、仮にもしこの「何か」を思想とするならば、これを区別された働きとしての表現・理解はもはや技術・技能でしかなくなってしまうことであると話された。

4時限目 児童心理学 水口教師 文II 309

ギルフォードの知能構造の説明

又知能をのばすには、知的因子をつついてやる説明

3ヶ月の微笑について（天使の微笑）の説明

赤ちゃんがにこっとするのは、自分に快感的生理現象であり、親がそれにこたえてやることにより自発的的微笑に移っていく段階になる。赤ちゃんを常に快適な環境に置くと知能の多い子供に育つとの説明あり。

3時限目、今日は授業がなかったので、休息の為の教室を文IIの404教室を与えていただく。私共は色々の相談で過ごす。

8月8日（土）より高校野球甲子園大会が始まっており、それぞれ故郷のチームの応援に熱が入る。

木内 記

夜、私と酒井先生は後楽園の巨人対阪神戦の入場券をもらったので観戦。応援に行ったが残念の事、今日は巨人は6対1で敗れた。

8月18日 木曜日 曇時々晴

2時限 国語教材研究 上原教授

現在の“ことば”、やまとことばに由来するもの（漢語でないもの）を説明されたが、非常に興味深く、且つ説得力もあった。時々こじつけのように感じられたが、考えてみると、そうかな、とも思われる。

柳、柿、杉、檜、榎等は、みな下に“ホ”がつく。そして、柳はやなやなした木の意味から、というよりも感じから来た。笹もゆるる音に由来する。が、松は単なる木ではなく、神の来臨を“待つ”木であり、桜は、“さ”は接頭語であり、“くら”は“座”である。枕も同様“真座”である等という語源は凡て感覚から出来たものであり、日本語は感覚を重要視せねばならない、というのは同感である。

この様な研究の本があったら是非読んでみたいものと思う。

8時限 自習

正善先生が来られ、来週の8日間補習をすること、その他につき連絡された。

4時限 児童心理学 水口先生

昨日に引き続き、ピアジェの説の紹介をされた。特に乳幼児期に関するものであったが、だきつき反射、吸吮反射、口唇探索反射、追視反射等のあることは、母親が傍に居ないで育つことの多くなった現代、乳幼児の成長につき考えねばならぬ重大な問題があることを思わされる。スキン・シップの重要性が感じられる。

5時限 女性軍は、それぞれ残って勉強、男性軍は、センターに帰り明日の道大祭前夜祭の為の準備。

夜は、センター屋上で、衣裝をつけて、ダンスの最後の猛練習。汗が床にしたり落ちた。

酒井 記

8月14日 金曜日 曇夕雨曇

2時限 国語教材研究 上原先生

時枝言語感 資料P27

1. 人は、同じ自然界に住んでいるのではない。
2. 現実、根強いのではなくて、いつ変化するかも知れない。隣りにいる人が一瞬にいなくなり得る。

ことば調べ

1. 辞典にあることばの意味。ことばの置き換えに過ぎない。

意—意識的な心。意味—心の味わいとこと。

2. ことばは内容を含まない。(言語仮定説) P 89 教師は知っておくこと。

3. 「意味の意味」—意味は、どんな意味を持っているのか。(有名な書物)

「なにするのよ」4・5人の人が次々に言う—笑いが出る。

主体が客体化していく。言語主体の把握

電報ゲーム いかにも意味というものは、個人によって違っているかの証明。

6組—1組—1列約20人、最後尾の者が黒板に文を書く。全部原文と違う。これは、言語運用の能力ではなく、その人自身の味わいが、それを決める。「池田さんはうそは申しません」池田元首相、ひどい言い分。そのことばそのものが、ほんとうかどうか証明できない。言ってはならないこと。

「誠はうその皮、うそは誠の骨」ことばの二重性—ことばそのものが信用できない—一面それでよい—他人に自分の心を奪われない。

P 46 ことばの哲学

「ひとは、ひと自身—生きているともいえぬ」まで。

自然界に対して我々の心は反動するということ。(以下略)

(女性)—髪を大切にする。しない女に、いい子が生まれるはずがない。

(よい座り方)—。(略)

(挨拶) // (//)

4時限 児童心理学A 水口先生

「母親でなくても、つき合いたくなるような母親になりたい」巽島洋子(?) 歌手。

環境の刺激によって子供は開発される。

応答する環境、応答する環境ベツト。

昨日に引続き、乳児期から2年までの環境と子供の発達の講義がある。

テキスト P 58 L 4

視覚中枢と味覚中枢と運動中枢との結合

幼少時に、栄養が不十分だと知的機能の低い大人ができる。

どんな玩具を与えるかは大事な問題—知的に使用される物。

知能に及ばず経験の効果—精薄の乳児を精薄女子寮に預けた—知能指数が著しく向上した。—刺激が与えられた。外。

通大まつり 前夜祭 別添の通り

小雨の中を予定通り、小学部グラウンドで決行。会場は色とりどりの雨傘で一杯。女性のゆかた姿が美しく懐かしい。

聖火入場、10本余のたいまつが荘厳。

お国自慢では、えこひいさでなく、研修生の民俗舞踊が最も人気があったと思う。衣裳が良く工夫されていたし、音楽も踊りもリズムがあって……。

最後の全員によるフォークダンス。楽しく若さにあふれてー。

10発以上も打ち上げられた花火。孔雀を連想させた。

幸いお国自慢の中頃から雨も上がった。雨に濡れた学園の緑が電燈に映えて美しい。正善先生の研究室で、ビールやジュースなどご馳走になる。夫人も見えられる。

11時センター着。皆さんご苦労さまでした。

昭和56年度 通大まつり

主催・玉川大学通信教育部学生会

協賛・玉川大学通信教育部

プ ロ グ ラ ム

前夜祭

日時 8月14日(金) 17:30～20:30
場所 小学部グラウンド (雨天の場合は大体育館)

第一部 集いの広場

みんなで歌おう 17:30～
フォークダンス

第二部 開 演

1. 合唱指導(課外活動)
2. 民謡同好会
3. 詩吟同好会

第三部 開 会 式

18:30～

1. 開会宣言
2. 学生会長挨拶
3. 聖火入場
4. 玉川理念斉唱 (真・善・美・聖・健・富)
5. 営火点火 (燃えろよ、燃えろ 斉唱)
6. 学長挨拶

第四部 お国自慢

19:00～

1. かんとう、ねぶた
2. 河内音頭
3. 黒田節、小原節
4. 第8回中南米日本語教師本邦研修生による民族舞踊
•フォークダンス

第五部 閉 会 式

20:20～

- 閉会宣言

労 作

20:30～

8月15日 土曜日 晴

終戦記念日

盆

外出や、通大祭に行ったり（女性）してセンターは静か。

盆なので、前の通りを子供達が「ワッショイ、ワッショイ」御輿（というのだろうか）を担いで通る。意外と見ている人は殆んどいない。

ふと故郷の盆を思う。24年ぶりに訪日しても、研修生は行けない。

夜は、みんな帰って遅くまで眠やか。

私は胃がじくじく痛んでー。

8月16日 日曜日 晴

遅く目が醒める。

殆んど外出らしく午前中静か。

なんとなく一日が過ぎる。

講義も、もう一週間だけ。みなさん頑張りました。

樽木 記

8月17日 月曜日 晴

二日の休日のためなので皆体調も良いらしい。元気で登校。

第二時限 国語教材研究 上原先生

乳児の言語の発生について講義あり、(1)は視覚印象と言語に関して（感覚と知覚）久保良英氏の言語に対する考え方に問題があるとしても「全ての身体的器官はその機能上、最初は事物に関係しているもので、たとえば、感官は外部の刺激を受容、すなわち四肢や内部器官の活動は、物質的材料によって行われる」としたのは卓見である。(2)聴覚印象と言語については、種々の例をあげて人間は心象と音声との結びつきを聴覚としていることがわかる。すなわち言語は音声であり、その音声にはそれぞれ形・姿・意（ところ）がある。

第三時限 原地授業研究 正善先生

ペルー、リマのユニオン校の教科書（白鳥幸子著）の説明あり

第四時限 児童心理学 水口先生

A 今迄の復習的な講として「知能の発達と経験」と「知能の発達する環境」とは似て異なるも

のである。即ちこの中のことは経験とは質的の差異があり、行動的具体的刺激と言語的抽象的
刺激によってかわってくる。問題の意欲とは知能をのばす内的要因である。

B Competence (能力、資格)能力とモチベーションを一体としてとらえる概念であり、有
能さ、知的実力であり、新聞の切抜を読んで一例として説明。

C 心と身体の発達条件

1 身体の発達の生理的要素 2 社会的環境 3 子供の意識的な自発的な学習の努力、努力と
はやる気、又は意欲のことである。

で以上総合し、どうしてやればよいか、即ち

- (1) 子供の基本的な欲求を満足させる。
- (2) 就学前の早い時機に学ぶ楽しさを体験させる。
- (3) 才能を正しく評価する。

正常児 (R. S イソンバース著) を読むと大へん参考になる。

塚田 記

8月18日 火曜日 附

第二時限目 国語教材研究 上原先生

昨日に続いて教育演習

教科書にある絵本について指導するポイントを説明せよと言う事で何人かの先生が前に出られ
それぞれ説明された。ところが、どのように説明しても上原先生の意にかなう人がなく見ていて
気の毒になるほどの追求を受けておられた。私自身上原先生の講義の内容がよく理解出来ない。

明日又この続きだがこわい感じがする。

第四・五時限目 体育レクリエーション 石井先生

音楽教材・児童心理学・体育レクリエーション、それぞれに別れる。体育レクリエーションは
野外活動についての講義の後、キャンプファイヤーの組み方、飯ごう炊飯のやり方を聖山にて実
習。ところが実際には火をつけるではなし、御飯を炊くではなし、非常に残念であった。

これが本当にキャンプに行つての実習だったらと思うと……

その後フリスビーでの遊び方

そして沖組の歌を教わった。

哀愁あるステキな歌だった。

笹本 記

8月19日 水曜日 晴

昨日の初秋を思わせる涼しさとうって変わって、今日は又元のむし暑い天気となった。

第2時限、上原先生の国語教研は、今日も昨日に引き続き、教科書の実際指導の練習を、指名された何人かが前に立ってさせられたが、先生を満足させ得る答を出せた者は一人しかおらず、例によって私達には理解し難い授業であった。

昼食を404室ですませ、第3時限、正善先生の現地の授業研究、今日は、最初の内、木内先生、榎木先生の短歌の発表あり、お二人の作品の上手なのに感心。正善先生、我々皆に在日中の感想を歌にする様にとおっしゃる。

その後、現地の学校の状況報告、今回は西山先生と征本久美子先生。西山先生の(バイヤ)学校の父兄が大変教育熱心で協力的であるとの事。教師の研修会等もさかんである事にうらやましく思った。

体育レクリエーション、石井先生の授業は、半分は教室、半分は野外で行われる。初めの一時間は今日は、野外活動のすすめという課題で、現代の日本の子孫たちがやる気をなくし、学ぶ意志のない子が増えているが、そういう子供を作らない為に野外活動を今盛んに主張しているとの事。社会の落ちこぼれを作らぬ為、又野外活動によって心身共に強く、自然を大切にする心を育てる事を目的とする。その他、実地踏査要領について。

今日は昨日と同じくフリスビーを飛ばす練習、みんな昨日に比べると大分上手に飛ばせる様になった。その後、聖山から学園内の一部コースをジョギングで一周。それぞれの体調に合わせて走る。今日は風のないムッとした天気の中汗だくになって走る。

第4時限の授業に、町業団本部の今雪部長が我々の授業風景を参観しにおいでになった。今雪部長が来られたことを気がつかなかった人はだれ?その人はいねむりしてたんですよきっと。

佐々木 記

8月20日 木曜日 曇り

第2時限 国語教材研究 上原教授 10:20～11:40

国語教材研究序説 教育演習

P 151 わらい話

1. それにちがいない(笑いを取り出している要因は何か)断定である。
2. ほうし (感情生活)

感情は発達する。感情のしくみを知らなければ教師は子供を指導することは出来ない。子供の感情発達をよく観察し、それに磨きをかけるために役立つ事は、国語教育の大事なことで

ある。

2.のテーマ「ほうし」によって学ぶ。

第8時限 休み

通大祭の写真を見に行く途中、昌谷先生に偶然会い、昌谷先生の車で町田市内をドライブ、薬師寺公園を散策した。森川先生、佐々木先生、笹本先生、大西の4名。

第4・5時限 選択科目

児童心理学 男の先生全員

音 楽 矢内先生

体育レクリエーション指導 森川先生、佐々木先生、笹本先生、大西

体育レクリエーション指導 石井教授 14:20～17:20

講義 野外活動論

野外活動とその効果

キャンプファイヤーの演出

歌 キャンプ協会テーマソング

阴るい空に

あの背い空のように

実技 フリスビーの練習

クロッカー

ミニテニス

○学生食堂のメニューにも飽きたのか、最近殆どどの先生が駅弁を買って来ている。食世が混雑して昼食の時間が少ないためかも知れない。

大西 記

8月21日 金曜日 曇

第二時限 国語教材研究 上原教授 文I 209

国語教科書の中で「気」がつくという言葉がどのように使われているか。子供の作文によって調べた結果、先生、父兄たちが作文を書かせる時「思ったことを書きなさい」という人が多いため作文の最後に「思いました」と書く生徒が多い。

思い出す50%以上

思いやり、思いのこす、思いうかべる、思いきる、思いこむ、思い出せない、思いなおす、

思うぞんぶん 30～50%

第三時限 自習

第四時限 児童心理学 男の先生全員

五時限 音楽リズム 矢内

体育レクリエーション 女の先生4名

音楽リズム 私だけの選択科目 迫先生

明るく楽しく子供達と同化できる迫力のある先生である。

「歌に心を」忘れず、即興による歌づくり、よろこびに満ちた歌が多い。

音楽リズムによる劇構成

例 どんぐりころころ 起承転結による物語をつくる。歌も入れて楽しくやる。

1 } 教科書にある通り
2 }

8 間奏を入れて、どんぐりがお山へ帰りたいたいという歌詞をつくり、

4 番でどじょうがどんぐりをなぐさめてやる歌をつくり、間奏が入る。

5 番でどちらもよろこんだところというように即興的につくりあげる。

歌にあわせて身体全体で自分のイメージの表現ができ、創造性の芽生えを育てる大切な教科目でありました。

矢内 記

8月22日 土曜日 雨(台風15号)

早朝より大雨、16年振りの大きな台風接近とか、いやな一日の始まりとなる。

第2時限 上原先生 国語教材

いつものように教育演習

今日のテーマは“アンデルセン館で”

例のごとく前に出て発表するのだが、まともに答えられる人は誰1人としていない。いつも不思議に思うのは、特に女の人でわからないのに何やかやと答えては上原教授の攻撃を受け最後は一言もしゃべれなくなる。我々も本来の答えを考えるよりは女の子の気持ちを察して気が気でない。無理に恥をさらさなくても“わかりません”で済ませるものを、中には前に出て二言三言しゃべったかと思うときつい声で返される人もいたっけ。最初から今日までとても厳しく教えて下さるが私はとてもついていけない。“こわさ”さえ覚えて、こんなことは私一人だろうか。要するに解答は“構想”そして詳しくは“時間と空想とイメージ”小学校の先生で何人理解出来るでしょうネ……………?

第3時限 自習

4時限目 男性軍 児童心理学を学習

5 “ 女性軍は 音楽一般

体育及びレクリエーション それぞれ別れて

石井先生より、中南米研修生一同に手作りのを頂いた大変心のこもったお土産に感激

石井先生本当にありがとうございました。

いつまでも大切にに使わせていただきます。

石井先生の講義は、健康運動の注意事項

レクソング指導、遊び等だがいにくの雨で教室で教わったすばらしい先生のレク指導、
今日が最後となってしまった。“残念”とただ一言。

森川 記

8月23日 日曜日 雨のち晴

長い期間と思っていた研修もゆっくり出来る日曜日は今日が最後となってしまった。それぞれ思い思いに一日を過ぎた。後にはレポート提出が控えている。あまりのんびり出来ない。あー助けてー

森川 記

8月24日 月曜日 晴

第二時限目 国語教研 上原先生

今日は最後の授業で今日の授業講義は我達にも理解できる。上原先生の授業としては本当に有意義なる時間であった。

第三時限目 現地授業研究 正善先生

正善先生に対するレポート作成提出につき具体的に説明あり。

レポート題材

1. 自分の勤めている日本語学校について
2. 各地域の日本語教育について、用紙の 布あり、提出期はでき得る限り速やかに提出する方
要請あり。
3. スクーリング閉校式中南米研修生も参列、登校時間8時まで。
4. 国際学友会、日本語学校見学につき説明あり、詳細については後日連絡して頂く。下車駅新

大久保。

第四時限目 児童心理学 水口先生

本日を以って水口先生の授業も終了する。今日強く注目した点、登校拒否の問題に重点をしほり講義された。

- イ. 神経的、又優等生の息切れ
- ロ. 其の他の神経的及び社会的情緒の未成熟、分れつ症、うつ病
- ハ. 怠学傾向によるもの、ずる休み、定着の意のなき時までには注意をはらう
- ニ. 積極的意図的によるもの、行く必要なしと理くつつける(理由)

今夜研修生の集い、下記諸問題につき協議する。

1. 玉川学園の諸先生を招待、謝恩会開催の件

9月11日補修授業後行う献立及び必要経費等給て森川先生に一任する。

2. 9月10日移住センターの方々よりお別れ会を頂く。
3. 9月14日研修生よりセンターの皆様方へお礼会。
4. 9月8日石塚職員による研修生に対するお別れ会を頂く。
5. 学園長さんに記念色紙をプレゼント、花束贈呈。
6. センターに記念色紙をプレゼントする。以上決定す。

西山 記

8月25日 火曜日 曇時々雨

午前中はゆっくり旅仕度をして、午後3時半よりの玉川学園大学通大生閉講式に出席する。全員6月19日訪日以来なる研修を病氣もせず一日として休まず過ごせたのも、事業団の熟考な配慮、玉川学園の先生方が特別に私達に気をつかってくれた事、又宿舎であるセンターの人達の温厚な待遇によるものと非常に感謝している。

閉講式に於て、通大生と同等に行われたが、ただ残念であった事は、学長が途中で気分が悪くなり、早退したので私共中南米研修生の花束は代理の人に渡し、学長直々に渡せなかった事である。しかし、始めより最後まで我々中南米組には、特別の配慮を下され、誠に感激のいたりに思っている。

木内 記

8月26日 水曜日 晴

昨夜より宿泊している事業団本部の西山氏同行で待望の関西旅行へ出発。午前9時50分新横浜より「こだま」で一路京都へ。午後1時頃着。さっそく中京区御幸町の西山ホテルに旅装を解く。明日京都市内見物との事で、本日は自由行動、市内を数人で夜の祇園見物する者、大阪の親類を訪問する者、旅館に残る者。それぞれ自由に楽しんだ。

木内 記

8月27日 木曜日 曇時々晴

朝6時半起床、7時朝食、9時より観光バスで嵐山一日モデル・コースに出発。最初西本願寺見学より始まり、嵐山をながめる所で昼食。後、金閣寺、西陣織等見学後、銀閣寺、平安神宮、知恩院、清水寺、三十三間堂とまわってくる。

私事で申し訳ないが、お寺や神社に行き始めて日本に帰って来た実感が湧いた。

又、西陣会館での着物のショーは、娘の多い私に、もしこんな着物を着せてやる事が出来たらと思いつきながら観た。

木内 記

8月28日 金曜日 曇時々雨

朝8時西山旅館を出発。私共10名と引率の西山氏計11名、タクシーに分乗、私達(矢内、西山、塚田先生)4人乗の車だけ、運転手が気をきかせすぎて反対側の京都駅につれて行ってくれたのでハプニングがあった。

しかし、あの広い京都駅でも、いつも冷静な私達30分後合流出来た。8人を一ヶ所に待たして、反対側を探した為、しかし、時間は計画通りに行けず。

奈良着後、すぐ観光バスで見物に、荷物は旅館においてから。木内先生は、今朝あわてて出た為、土産物を京都の西山旅館に忘れてくる。明日とりに行かなくてはならない。奈良では、お寺まわり京都も同じ様だが……。特に印象に残ったのは、東大寺の大仏、以前鎌倉でも大仏を見たが、ここでは建物の中に収まっているのに改めておどろく。又慈光院でお茶と茶菓子をいただき非常においしく感じた。私が静岡出身だけにお茶が一番にうるさいが、ここのお茶は本当においしかった。

(私事で申し訳ない)今日は春日神社の鹿をはじめ他5・6ヶ所へ行ったが、一番の印象はこの二つと雨の為、皆期待が半減したことと、疲れの為、何ヶ所か見物せずバスの中にて、いねむりを楽しんでいた人あり。

夜は「むさしのホテル」に投宿、西山先生(ブラジル)は、見物後一足先に皆と別れ天理市へ向

った。

木内 記

8月29日 土曜日 ~ 9月6日 日曜日

朝8時半、奈良のホテルにて解散、それぞれの出身地研修へ向った。

団長、酒井先生は秋田・北海道、副団長、佐々木先生は青森、森川先生は広島、矢内先生は福島、大西先生は香川、梶木先生は福岡、塚田先生は長野、西山先生は愛媛、私は静岡とそれに唯一人二世のポリビア生まれの笹本先生は伯母のいる宮城へ、小中学校で研修する。

木内 記

9月7日 月曜日 晴

昨日か本日、横浜の移住センターに帰省となっており、昨日帰省した人もあったが、本日夕方までに全員無事帰省。しかし、皆郷里で歓待を受け過ぎたらしく、酒のない国へ行きたい様な顔をしている者ばかりである。

木内 記

9月8日 火曜日 晴後曇後雨

午前8時、横浜のセンター発、品川、新宿経由、中央線の大久保駅下車、9時半丁度正善先生と改札口で落ち合い、徒歩約20分国際学友会着。ここで最初中級クラスの授業参観、東南アジアの学生が大半。あと中国系、ほとんど自費留学生だそうだ。4月より始まり、全然日本語を知らない学生がここで会話、読み書きを一年か一年半でマスターして巣立っていくそうだ。

私達の所と違う点は年齢層と本人が希望してやっているという点であるが、教える立場からは非常に参考になった。留学生なので歴史的な文形で授業している語学の先生に幕府と政府はどう違うか等の質問をして先生を困らせた生徒もおり苦笑させられた。午後、初級クラスの参観、ビデオ・テープによる授業を見せて頂き、一時間の予定の懇談会が約二時間近くなったほど皆、興味深く参観をした。

木内 記

9月9日 水曜日 晴時々曇

午前10時より、事業団本部より奥田課長以下西山職員まで5名の人とセンターより所長以下8名と私達の10名で、センターの4階会議室にて総括、最後のまとめ、色々な活発な意見があり、後より報告書提出となっているので、ここでは記さない。夜玉川学園の塾生の夕べに参加、夕食は会食（一同に集まって夕食をする意）私達、中南米組の為にわざわざ学長小原哲朗先生が挨拶に来てくれた。私達は、10分程到着が遅れたが、皆待っていてくれ非常に申し訳なかった。

会食後、責任者の人達がわざわざ塾生の寮（男女共）を案内して見学させてくれた。船りは、玉川学園前駅まで全員を車で送ってくれた。本日帰省午後10時半。

あと一週間で全日程が終るが、今になって夜昼なく行事があり、私を始め他の先生方の健康状態を心配する今日です。

木内 記

9月10日 木曜日 晴時々曇後小雨

昨夜の就寝は午前2時すぎであったが、5時頃よりそれぞれ起床、6時センター出発。品川、山手線のりかえ、次中央線に乗ったが、山手線のドアが閉まると、矢内、笹本先生が眠ったまま行ってしまい、木内先生を残して我々は心配しつつ、武蔵小金井に向かう。北口で待っていると、最初2女先生、次に少しして、木内先生が現われ安心、正善先生の御案内で東京学芸大学、海外子女教育センターに9:00前に到着。

9:00~10:00センター長高萩保治先生、所員、中西晃先生等より海外子女教育の現状とセンターの役割につき御説明があった。それによると、海外勤務者は年々増加しつつあり、今年度は、約20万人とのことで、その子女は27,465人が就学しているが、日本人学校に学ぶ者45.0%、土・日に補修授業校に通う者85.5%、その他19.5%で、平均3~4年で帰国するが、現地校に学んだ者はほとんど母国語を知らない者が居り、そのまま母国の学校に入学すると、カルチャー・ショックを起こす場合がしばしばあり、その為、教育する研究をするのがこの教育センターであり、その“重症”の子女を教育しているのが、東京学芸大附属大泉小学校である。

10:00マイクロバスで大泉小学校へ行き、参観、見学したが、その最新の設備に驚いた。20数名が1クラスで、8人の先生方（大野、笠原、清水）により学んでいたが、完全に全員、個別学習を行っており、教科書の全部を学ぶのではなく、精選された課のみを学び、能力、努力に応じてどんどん進ませ、1~2年で母国の学校（普通校）に入学させるとの事、私の学校と全く同じ形態（教材、教具は別として）であることに驚き、且つ喜んだ。とても参考になる所が多かった。我々にグループの先生方からもっと早く、より長い時間をここの参観、懇談にさいて欲しかったと云わ

れた。

夜、センター側（海外移住センター）より食事と楽しい時間を与えられ、本当に感謝いたします。

酒井 記

9月11日 金曜日 昼

補充講座

1時限 9:00～10:30

音楽教材 朝日先生

音研 200

研修生の希望の歌の録音 (記念写真)

2時限 10:50～12:10

日本語を考える 片山先生

文 2-202

1. 南米の日本語教育視察報告書の内容の概要説明。

(記念写真)

2. 雑談

3時限 13:00～14:30

教育演習 岡田先生

文 2-202

1. リトミックの意義について

2. 全人教育の目的について (記念写真)

4時限 14:40～16:10

連絡事項外 正善先生

文 2-502

1. 16日、三角地点10時30分集合 記念木植え。そのあと、団体で、小・中学校に挨拶。

2. 修了式 学長室 正装（名札を着ける）制服でも良い。

3. 現地校のかかえる諸問題について

スクーリング受講科目別の簡単な内容と感想

16日に提出のこと。

謝恩会 16:30～19:00

研修期間中、お世話になった先生方12名を、学園正門右側の線路を渡った“コスモス”に招待、感謝の意を表す。

西山先生のユーモアたっぷりの名司会で、極めてなごやかに進行。学園側の先生方ひとりひとりの親しみあふれることばに感激する。また要望に応じて、全員が歌を歌われたのには意外であったと共にひどく親しみを覚える。3か月間のご指導を深謝し、今後の連携を願って散会する。

謝恩会を企画準備された(主に女性方と思うが)方々、ご苦労様でした。

梶木 記

9月12日 土曜日 曇時々雨

箱根旅行、石塚さん引率にて9時出発大船小田原経由箱根に至る。

夜、研修生一室に会し飲談夜半に至る。

9月13日 日曜日 曇後晴

箱根旅行、ケーブルに乗り、小田原経由午後3時半センター着。休む。在日もあと一週間残すのみとなる。

塚田 記

9月14日 月曜日 晴

玉川大学休みの為、先生方それぞれ自由行動

9月15日 火曜日 晴

敬老の日で休日

それぞれ荷物の整理

笹本 記

9月16日

玉川大学閉校式、引き続き学長招待昼食会

それぞれ修了証書を胸に、沢山の思い出を残して玉川の坂を下る。

玉川大学よさようなら 私達をお世話下さった先生方どうもありがとうございました。一生忘れません。さようなら。

9月17日

国際協力事業団 閉校式

今日で本当に終わってしまった。お世話下さった事業団の皆さん本当にありがとうございました。
お元気で さようなら すばらしい昼食で一生の思い出になると思います。各地において一生懸命頑張ります。今後ともよろしく願い申し上げます。

西山 記

第 3 回現地日本語教師研修日程表

本邦研修生一覧

現地日本語教師第1期研修

		I		II		III		IV		
		9:00	10:30	10:40	12:10	13:00	14:30	14:40	16:10	
6.19	金									
20	土									
21	☉									
22	月	事業団、外務省表敬								
23	火	玉川学園案内、学園長表敬、歓迎昼食会(国際教育室長主催)、ガイダンス								
24	水	児童心理学(日名子)		全人教育(岡田)						
25	木	美術教育(佐藤)			現地授業研究(正善)					
26	金	日本語を考える(片山)			体育・レクリエーション指導(石井)					
27	土	東京都内見学								
28	☉									
29	月	海外日本語教育 (上原)			現地授業研究			美術教育		
30	火	美術教育			現地授業研究			基本体操(中山)		
7. 1	水	児童心理学			学長招待昼食会					
2	木	9:30 ~ 12:00 幼稚園参観			小学校の舞踊(玉川)			児童音楽(朝日)		
3	金	全人教育			体育・レクリエーション指導					
4	土									
5	☉									
6	月	海外日本語教育			小学校の舞踊			児童音楽		
7	火	8:30 ~ 14:30 小学校参観			児童音楽					
8	水	児童心理学			全人教育					
9	木	中学部参観			小学校の舞踊					
10	金	日本語を考える			現地授業研究					
11	土	小 旅 行 (鎌倉方面)								
12	☉									
13	月	海外日本語教育			小学校の舞踊			大きな器具を使った体操(古谷)		
14	火	自主研究			自主研究					
15	水	児童心理学			現地授業研究					
16	木	日本語を考える			小さな器具を使った体操(永井)					
17	金									
18	土									
19	☉									

現地日本語教師第2期研修

		I 8:40 10:00	II 10:20 11:40	III 12:40 14:00	IV 14:20 15:40	V 16:00 17:20
7.20	月					
21	火					
22	水	10:00 入学式、開講式				
23	木	教育学演習	現地授業研究	音楽教材(朝日)		
24	金	〃(岡田)	〃(正善)	〃		
25	土	〃	〃	〃		
26	㊥					
27	月		〃		〃	
28	火		〃		〃	
29	水		〃		〃	
30	木					
31	金	〃	現地授業研究	〃		
8.1	土	学校劇特別研修				
2	㊥					
3	月	教育学演習		音楽教材		
4	火	〃	現地授業研究	〃		
5	水	〃		〃		
6	木	} 学校劇夏期大学(伊豆長岡)				
7	金					
8	土					
9	㊥					
10	月					
11	火	国語教材	現地授業研究	〃児童心理学 (日名子)	〃音楽一般	
12	水	〃(上原)		〃保育内容音楽リズム(迫)		
13	木	〃		〃体育・レクリエーション指導(石井)		
14	金	〃				18:00-前夜祭
15	土	通 大 祭				
16	㊥				〃印の選択科目(4)	
17	月	国語教材	現地授業研究	のうち1乃至2科目を		
18	火	〃		受講すること。		
19	水	〃		(11日~24日)		
20	木	〃				
21	金	〃				
22	土	〃				
23	日					
24	月	〃	現地授業研究	15:30 閉講式		
25	火					

現地日本語教師第3期研修

		I 9:100 10:30	II 10:40 12:10	III 13:00 14:30	IV 14:40 16:10
8.26	水	関西（京都・奈良）方面旅行			
27	木				
28	金				
29	土				
30	⊕				
31	月	出身地研修			
9.1	火				
2	水				
3	木				
4	金				
5	土	国際学友会日本語学校見学			
6	⊕				
7	月				
8	火				
9	水				
10	木	東京学芸大付属、海外子女教育センター、付属大泉小・中学校見学			
11	金				
12	土				
13	⊕				
14	月				
15	火	玉川大学修了式 さよならパーティー 事業団閉講式			
16	水				
17	木				
18	金				

昭和56年度現地日本語教師本邦研修一覽

支部	氏名	性別	年齢	国籍	出身県	最終学歴	学校名	学校所在地	経歴年数	備考
サンパウロ	酒井 政広	男	48才	日本	東京	高卒	ロンドリーナ文化体育協会	パラナ州 ロンドリーナ市	22年	団長
	木内 務	男	41才	日本	静岡	高校中退	イビウーナ日本語学校	サンパウロ州 イビウーナ市	11年	
ベレン	佐々木 邦子	女	36才	日本	兵庫	看護婦養成所	イガラッパス日本学校	パラナ州 イガラッパス郡	3年	副団長
	大西 保子	女	44才	日本	香川	高卒	トメアス文化協会日本語学校	パラナ州 トメアス郡	3年	
レシノーフェ	西山 賢多雄	男	56才	日本	愛媛	尋常小学校卒	クビチュック日本語学校	バイヤ州 マッタ・デ・サンジョアン郡	12年	
サンタクルズ	笹本 久美子	女	21才	日本 ポリアリア	東京	高卒	サンフアン日本語学校	サンタクルズ州 サンフアン	4年	2世
アスンシオン	樽木 寿	男	59才	日本	福岡	農学校卒	アコンバイ日本人会	パラグアイ国 アマンバイ県	20年	
サントドミンゴ	矢内 愛子	女	41才	日本	福島	高卒	ドミニカ日本語学校	ドミニカ国 ラペーガ州	11年	
アルゼンチン	塚田 務	男	54才	日本	長野	農学校卒	西部日本語学校	アルゼンチン ブエノスアイレス州	15年	
マリ	森川 早苗	女	37才	ペルー	広島	女子専門学校卒	ワラル日本人学校	ペルー国 マリ	3年	

55年度現地日本語教師本邦研修生一覧

支部	地区	氏名	年齢	経歴年数	学 校 名	生徒数	渡航年	本 籍 地
ベレーン (ブラジル)	サンタイザベル	古和田 道弘	33	5	サンタ・イザベル日伯文化協会	92名	1972年	京都府綾部市五津合町前56番地
リオデジャネイロ (ブラジル)	ベラビスタ	小茄子川 力雄	61	8	ベラビスタ植民地自治会 アサヒ日語学校	56名	1953年	宮城県恐田郡南郷町二郷字才兵工神名
サン・パウロ (ブラジル)	フンシャル	加 藤 英 子	57	13	フンシャル日語学校	48名	1961年	長崎県諫早市高城町734番地
ポルトアレグレ (ブラジル)	スザン・フクヒロ	山 本 豊	38	8	フクハク日語学校	131名	1960年	兵庫県水上郡春日町野山15
ポルトアレグレ (ブラジル)	ラーモス	森 徳 子	41	3	ラーモス日語学校	48名	1967年	三重県桑名市和泉904
フェノスアイレス (アルゼンチン)	アンデス	岸 本 久 子	54	9	南部メンドサ日語学校	25名	1963年	大阪市浪速区塩草町1134
アスンシオン (パラグアイ)	ピラゴ	永 見 悦 子	40	4	ヒラゴ中央日語小学校	53名	1960年	高知県高岡郡越知町横屋東226
	アスンシオン	鍋 山 絃 一	39	2	アスンシオン日本学校	82名	1976年	東京都立川市羽衣町2-28-6
サンタ・クルス (ボリヴァイ)	オキナワ第1	儀 間 弘 治	40	9	オキナワ第1日語校	101名	1958年	沖縄県中 郡読谷村字 名渡
	サンファン	深 淵 晴 子	49	15	サンファン日語学校	207名	1961年	長崎県長崎市東立神町74

昭和54年度現地日本語教師本邦研修生一覧

支部名	教師名	学 校 名	生徒数	経営形態	授業時間	備 考
ベレーン支部	上 田 和 子	サンタイザバル日本語学校	88名	日本人会の中の教育委員会	週 3~5 hr 200 hr	日本語のみ
レシーフェ支部	西 本 フ ミ	ウナ植民地日本語学校	25名	個 人	週 3 hr 200 hr	日本語のみ
サンパウロ支部	森 脇 礼 之	カシヨエリンニャだるま塾	65名	個 人 日本人会後援	週 38 hr 週 1,320 hr	日本語、音楽、体育、図工
サント・ドミゴ支部	渡 辺 次 雄	アラサツーパー日本語学校	348名	日本人会経営	週 7.5 hr 300 hr	日本語、絵画、音楽
リマ事務所	上 原 色 子	ドミニカ日本語学校	88名	個 人	週 7 hr 367 hr	日本語
サンタクルス支部	橋 田 久 子	ラ・ビクトリア小学校	388名	父母会経営	週 5 hr 150 hr	日本語
アスンシオン支部	高 野 美喜夫	サンファン日本語校	188名	日本人会経営	週 10 hr 週 320 hr	日本語、数学、社会、情操教育
フエノス・アイレス支部	野 本 武 生	サンタローサ日本語小学校	66名	日本人会経営	週 4 hr 週 225 hr	日本語、算数
	石 川 宏 紀	ビジャ・エリサ日本語学校	24名	父兄会経営	週 9 hr 週 410 hr	日本語、音楽、工作、絵画、体操
	古 川 鶴 雄	ノルチ日本語学校	66名	日本語クラブ	週 16 hr 週 660 hr	日本語

JICA